

生物多様性アクション大賞

生物多様性の保全や持続可能な利用につながる地域の活動を掘り起し、光を当てるため、MY行動宣言の5つのアクションに即した活動を全国から募集して表彰

生物多様性アクション大賞2013

主催：生物多様性アクション大賞実行委員会

※UNDB-J、一般財団法人セブン-イレブン記念財団、一般社団法人CEPAジャパンから委員を選出

※2014年度からはUNDB-Jの主催事業として実施する予定

協賛：前田建設工業株式会社、セキスイハイム、キリン株式会社、経団連自然保護協議会

協力：富士フイルム株式会社

後援：朝日新聞社、環境goo

募集期間：2013年7月25日～9月17日

応募総数：122

表彰数：19



表彰式(2013.11.3)



大賞を受賞した「アイキッズ～エコアイデアキッズびわ湖～」による発表
生物多様性全国ミーティング(2013.11.10)

※ 詳細はウェブサイトをご覧ください <http://5actions.jp/award/>

1

生物多様性アクション大賞

生物多様性アクション大賞2013 受賞団体

- ・大賞・たべよう部門優秀賞 アイキッズ～エコアイデアキッズびわ湖～(滋賀県草津市)
- ・ふれよう部門優秀賞 雨ふる大地の水辺保全ネットワーク(大阪府)
- ・つたえよう部門優秀賞 株式会社島津製作所 え～こクラブ(京都府)
- ・まもろう部門優秀賞 NPO法人ニッポンバラタナゴ高安研究会(大阪府)
- ・えらぼう部門優秀賞 フェアウッド・パートナーズ(東京都)
- ・復興支援賞 松島湾アマモ場再生会議(宮城県)
- ・GreenTV賞 株式会社アレフ(北海道)、一般社団法人Think the Earth(東京都)
- ・セブン-イレブン記念財団賞 石巻海さくら(宮城県)
- ・審査委員賞
 - 赤坂みつばちあ(東京都)
 - 泡瀬干潟博物館カフェ『ウミエラ館』(沖縄県)
 - NPO法人 海の森・山の森事務局(神奈川県)
 - かとうさんち(山梨県)
 - 特定非営利活動法人グラウンドワーク三島(静岡県)
 - JUNEC(こども国連環境会議推進協会)チーム「365×3」(東京都)
 - 株式会社損害保険ジャパン、日本興亜損害保険株式会社(東京都)
 - 富山県立大学(富山県)
 - ゆりりん愛護会(宮城県)、
 - NPO法人 ラムサール・ネットワーク本(東京都)

※ 詳細はウェブサイトをご覧ください <http://5actions.jp/award/>

2

つないでみよう!

あなたの活動と生物多様性。

たべよう

地元でとれたものを食べ、
旬のものを味わいます。

つたえよう

自然の素晴らしさや
季節の移ろいを感じて、
写真や絵、文章などで伝えます。

えらぼう

エコマークなどが付いた
環境に優しい商品を選
んで買います。

まもろう

生きものや自然、人や文化との
「つながり」を守るため、
地域や全国の活動に参加します。

ふれよう

生の自然を体験し、
動物園・植物園などを訪ね、
自然や生きものにふれます。



生物多様性 アクション大賞

活動募集中 2014年5月22日(木)ー9月1日(月)

生物多様性という言葉には、ちょっと難しいイメージがありますが、5つのアクションを切り口にすれば、誰もがもっと参加しやすくなるのではないのでしょうか。たとえば、地産地消で旬の食材を使う食堂(たべよう)、海や川、山での自然体験(ふれよう)美しい自然や生きものの姿を写真で表現(つたえよう)、地域に残る伝統文化の保存(まもろう)環境に配慮した商品開発(えらぼう)など。ほかにもユニークな視点で生物多様性の保全や持続可能な利用につながる活動がたくさんあるでしょう。ぜひ、あなたの活動を「生物多様性」とつないで、応募してみてください。ほかの誰かのアクションのきっかけにもつながるはずです。



国連生物多様性の10年日本委員会
(UNDB-J)

大賞(優秀賞から1組)——エコプロダクツ2014でのプレゼンテーション(予定)

優秀賞(各部門1組)——たべよう部門/ふれよう部門/つたえよう部門/まもろう部門/えらぼう部門

復興支援賞——東日本大震災被災地の復興支援活動

詳しくはウェブサイトをご覧ください <http://5actions.jp/award/>

主催：国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)

共催：一般財団法人セブン-イレブン記念財団

協賛：前田建設工業株式会社 セキスイハイム 森ビル株式会社 特別協力：公益社団法人国土緑化推進機構 経団連自然保護協議会

協力：富士フィルム株式会社 後援：朝日新聞社 毎日新聞社 環境goo 事務局：一般社団法人CEPAジャパン

2014年7月1日現在

応募方法

「生物多様性アクション大賞」ホームページより応募してください。

<http://5actions.jp/award/>



応募部門

あなたの活動も生物多様性につながっているかもしれません。
5つのアクションからひとつを選んで応募してください。

部門	活動例	キーワード
たべよう部門	環境負荷が少なく、その地域、季節の生きものたちの恵みでもある、地元でとれた食材や、旬の食材を使って地域の食文化を掘り起こす活動。	自給自足、家庭菜園・市民農園、伝統食、地産地消、旬産旬消、食育、フードマイレージ etc
ふれよう部門	山、海、川、動・植物園などでの自然体験を通じて、自然の中で遊ぶことの楽しさや、地域の特色、生きものの生態や面白さを実感してもらう活動。	自然観察会、自然体験プログラム、自然学校、インタープリター育成、フィールドミュージアム、エコツーリズム etc
つたえよう部門	生きものたちのさまざまな色や形、行動を観察し、自然の素晴らしさや季節の移ろいを、写真や絵、文章などで記録・表現し、伝える活動。	伝承芸能、伝統行事、出版、ウェブ、アプリ、映像、写真、イベント、ゲーム、アート etc
まもろう部門	豊かな生態系を未来に残すため、森・里・川・海などを舞台に、自然や生きものの調査・保全・再生や、地域文化の保存などを行っている活動。	郷土芸能や伝統行事の保存、山村・里山・流域振興、自然保護活動、ナショナルトラスト etc
えらぼう部門	生物多様性のことをきちんと考えて生産・販売された商品やサービスを、その内容を開示し、消費者に提供する活動。または促進する活動。	フェアトレード、トレーサビリティ、グリーン購入、グリーンエコノミー、エコラベル etc

応募資格

日本国内に活動拠点がある団体・個人。

※政治活動や宗教の布教を目的として活動する団体や、公序良俗に反する活動は除く。

※詳しくはHPをご確認ください。

生物多様性アクション大賞とは…

「国連生物多様性の10年日本委員会」(UNDB-J)が推進している「MY行動宣言 5つのアクション」を参考に、5つのアクションに即した活動を表彰する「生物多様性アクション大賞」を設置します。

本賞は、全国各地で行われている5つのアクションに貢献する団体・個人の取組みを表彰し、積極的な広報を行うことにより、生物多様性の主流化を目指すものです。活動規模の大小を問わず、あらゆるセクターに「生物多様性の自分ごと化」を促し、「国連生物多様性の10年」の広報・教育・普及啓発(CEPA)活動の一つとして、またCOP10で採択された「愛知目標」達成の一助として実施します。本年は第二回の開催となります。

具体的には、全国各地で行われている生物多様性の保全や持続可能な利用につながる活動を募り、「たべよう部門」、「ふれよう部門」、「つたえよう部門」、「まもろう部門」、「えらぼう部門」の5部門で「優秀賞」を選定し、さらに「優秀賞」受賞者によるプレゼンテーションを経て「大賞」を選定します。

選考スケジュール



最新情報はこちら

<http://5actions.jp/award/>

<https://www.facebook.com/5actions.award>

お問い合わせ先：生物多様性アクション大賞事務局

TEL : 03-5459-2108 E-mail : award@cepajapan.org

国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)

関係団体・関係省庁の取り組み

団体名：兵庫県立人と自然の博物館（岩槻邦男）

名称	生物多様性協働フォーラム（第7回）
概要・目的	・三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株）、西日本自然史系博物館ネットワークとの共催の生物多様性協働フォーラムを第7回は京都府、京都市と共催で「いのちにぎやか、文化ゆたか～いのちとぶんかのきょうめいをよみがえらせる～」
該当する愛知目標（複数回答可）	・ 1、18
平成25年度実施内容等	・ 25年12月21日京都市で開催、関連の講演や事例報告の他、20以上の団体から京都の生物多様性、文化保全の取り組みを紹介するブースの出展
平成26年度実施内容等（予定）	・ 確定していない

名称	関西広域連合生物多様性保全施策の策定に参画
概要・目的	・ 県立の機構ではあるが、生物多様性に関わる課題に広域で関与するために、関西広域連合の生物多様性保全施策の策定に参画
該当する愛知目標（複数回答可）	・ 1、2、19、
平成25年度実施内容等	・ 広域連合事務局と府県単位で設立されている生物多様性関連機関との間で、広域連合で設定されている環境保全政策の実施に関して、具体化の策定に協力

平成 26 年度 実施内容等 (予定)	・引き続きシンクタンクとしての役割を果たし、実施の中核として活動する予定
---------------------------	--------------------------------------

名称	市町等の生物多様性戦略策定への協力
概要・目的	・兵庫県の戦略はつくられ、実施の実績の評価も行われているが、市町等では戦略が策定されていないところの方が多く、意識の開発、具体的な策定への助言などに務めている
該当する 愛知目標(複数回答可)	・ 1、2、17
平成 25 年度 実施内容等	・加西市、篠山市、豊岡市、伊丹市等で戦略が策定されたが、いずれも博物館員が協力した。
平成 26 年度 実施内容等 (予定)	・引き続き、準備中のところで策定に協力し、まだのところで啓発活動を行う

名称	ヘルンさんとタヨウ星人展
概要・目的	・松江市で小泉八雲記念館と共同で生物多様性啓発の会合を開催(8月3日)
該当する 愛知目標(複数回答可)	・ 1、18、19
平成 25 年度 実施内容等	・島根県立美術館でイベントを開催、親子連れをターゲットに、生物多様性に関心をもってもらう活動を行った

平成 26 年度 実施内容等 (予定)	・ 東北地域の博物館関連施設と協働の「光キッズプロジェクト」など、県外の関連施設とも協働し、生物性の主流化に貢献する
---------------------------	--

国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)

関係団体・関係省庁の取り組み

団体名：生物多様性 JAPAN

名称	「災害と生物多様性」国際シンポの開催
概要・目的	・ 国際生物科学連合 (IUBS) と共催で、災害と生物多様性にかかわる国際シンポを企画し、25年度にプレシンポ (1月28日) を開催 (地球環境基金による支援)
該当する愛知目標 (複数回答可)	・ 1、2、10、19
平成25年度実施内容等	・ 自然災害と生物多様性にかかわる研究成果を概観し、将来の減災に向けての可能性を探るために、これまでの自然災害と生物多様性の相関についての情報を探る
平成26年度実施内容等 (予定)	・ 9月に内外の関連研究者等を招聘し、仙台市でシンポジウムを開催し、さらに情報を補完し、27年度に報告書をまとめる予定

名称	ブータンにおけるレッドブック編纂に向けての人材育成
概要・目的	・ IUCN と協力し、レッドブックが出来ていないブータンで、編纂に向けて何が必要かのトレーニングコースを開き、関連の人材育成に協力した (トヨタ環境活動助成プログラムによる支援)
該当する愛知目標 (複数回答可)	・ 1、12、19
平成25年度実施内容等	・ レッドブック作成に経験のある研究者を派遣し、トレーニングコースで指導を行った。若手研究者を招聘し、意見の交換を行った

平成 26 年度 実施内容等 (予定)	・ 具体的な作業の実施にあたって、可能な支援を継続する
---------------------------	-----------------------------

名称	自然の聖地と生物多様性保全
概要・目的	・ Sacred Natural Site Initiative と協力し、生物多様性保全に対する自然の聖地の役割についての普及啓発活動を行う（経団連自然保護基金による支援）
該当する 愛知目標（複数回答可）	・ 1、18
平成 25 年度 実施内容等	・ IUCN/UNESCO による「自然の聖地－保護地域管理者のためのガイドライン」翻訳と発行（紙媒体＋web） ・ アジア国立公園会議における関連セッションとサイドイベントの開催 ・ オンラインケーススタディーの発行
平成 26 年度 実施内容等 (予定)	・ アジアにおける自然の聖地事例集の作成 ・ 世界国立公園会議における関連の発表やサイドイベントの実施

名称	自然災害に関する知見の啓発普及活動
概要・目的	・ IUCN が刊行した「IUCN: 減災のための環境の手引き」の翻訳と発行（紙媒体＋web）（地球環境基金による支援）
該当する 愛知目標（複数回答可）	・ 1、10、14、19

平成 25 年度 実施内容等	・ IUCN 刊行のパンフレットを邦訳して広く配布し、知見の普及に努める
平成 26 年度 実施内容等 (予定)	・

国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)

関係団体・関係省庁の取り組み

団体名：一般社団法人 日本経済団体連合会

名称	公益信託経団連自然保護基金を通じた自然保護活動支援
概要・目的	・公益信託経団連自然保護基金による国内外のNGOの自然保護プロジェクトに対する資金的支援。基金の原資は、経団連自然保護協議会が企業や個人に呼びかけて集まった寄付金等によるもの
該当する愛知目標(複数回答可)	・目標5、目標9、目標10、目標11、目標12、目標14、目標15、目標18、目標19、目標20
平成25年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外の自然保護プロジェクトに支援 61件、169百万円 ・平成26年度支援に係る公募を実施 ・現地視察会を開催
平成26年度実施内容等(予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外の自然保護プロジェクトに支援 58件、157百万円 ・平成27年度支援に係る公募を実施 ・現地視察会を開催

名称	生物多様性民間参画パートナーシップ
概要・目的	・生物多様性への民間事業者の取り組みを促進するため、事業者ならびに経済団体・NGO・研究者・公的機関等事業者の取り組みを支援する様々な関係者を交えて、ホームページやメールマガジン等を通じて、情報共有や経験交流を図るもの
該当する愛知目標(複数回答可)	・目標1、目標4
平成25年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者アンケートの実施(8月) ・グローバルB&B第3回会合に参画(10月) ・アドバイザリーボードを開催(12月) ・第3回会員会合の開催(12月) ・ニュースレターの発行(11回) ・各種イベントに参加(随時)

平成 26 年度 実施内容等 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業者アンケートの実施 (7 月) ・ グローバル B & B 第 4 回会合に参画 (10 月) ・ アドバイザリーボードを開催 (未定) ・ 第 3 回会員会合の開催 (未定) ・ ニュースレターの発行 (随時) ・ 各種イベントに参加 (随時)
---------------------------	--

名称	「経団連生物多様性宣言」の普及と定着
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「経団連生物多様性宣言」は、事業者が具体的な行動に取り組む際の道しるべとなり、「行動指針と手引き」は生物多様性の諸課題に関わる際に、各事業者が業種や規模等、経営内容に応じた的確な行動をとるために活用されることを期待。より一層の普及と定着を推進
該当する 愛知目標(複 数回答可)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標 1、目標 4
平成 25 年度 実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講演会・シポジウム「生物多様性保全に向けた企業への期待とその役割」を開催 (5 月) ・ 自然資本セミナーを開催 (2 月) ・ 講演会・シポジウム「環境保全活動の評価をめぐって」を開催 (3 月) ・ 企業と NGO との交流会を開催 (5 月、3 月) ・ NGO 報告会を開催 (2 回) ・ 機関誌を通じた情報共有 (3 回)
平成 26 年度 実施内容等 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講演会・シポジウムを開催 (1 回) ・ 企業と NGO との交流会を開催 (2 回) ・ 企業の ESD・環境教育に関する事例集をとりまとめ ・ NGO 報告会を開催 (随時) ・ 機関誌を通じた情報共有

名称	自然再生等を通じた東北復興支援
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東日本大震災により被害を受けた東北の自然再生、生物多様性の理解増進等を通じて、東北の復興を支援

<p>該当する 愛知目標(複数回答可)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目標 1、目標 14
<p>平成 25 年度 実施内容等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・みちのく潮風トレイル構想へ協力、現地視察（7月、12月） ・UNDB-J選定「生物多様性の本箱」を寄贈（2箇所）
<p>平成 26 年度 実施内容等 (予定)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会・シンポジウム「東北自然再生への取組み」を開催（5月） ・企業とNGOとの交流会を開催（5月） ・震災メモリアルパーク中の浜で植樹（5月） ・現地視察を実施 ・みちのく潮風トレイル構想に協力 ・UNDB-J選定「生物多様性の本箱」を寄贈

国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)

関係団体・関係省庁の取り組み

団体名：日本商工会議所

名称	容器包装リサイクル制度の申込み受付業務
概要・目的	「容器包装リサイクル法」に基づき、(公財)日本容器包装リサイクル協会からの委託により、容器・包装(ガラスびん、PETボトル、紙製容器包装、プラスチック製容器包装)のリサイクル義務のある事業者からのリサイクルの委託申込みの受付を行うとともに、全国に514ある各地商工会議所を通じた全国ネットワークの中で、「容器包装リサイクル制度」に関する普及活動を実施。
該当する愛知目標(複数回答可)	目標4、目標8
平成25年度実施内容等	<p>全国の514の商工会議所において、容器包装リサイクル制度における下記の業務を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① リサイクルの義務を負う事業者からのリサイクル委託の申込みの受付 ② 事業者リストの管理・更新 ③ 地域の事業者向け説明会・相談会の開催(19箇所の商工会議所)、商工会議所担当者向け研修会の開催(9月に3回) ④ 各商工会議所のHPや広報媒体等で制度をPR
平成26年度実施内容等(予定)	同上

国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)

関係団体・関係省庁の取り組み

団体名：日本商工会議所

名称	e c o 検定（環境社会検定試験）の実施
概要・目的	<p>環境に関する幅広い知識を礎に積極的に環境問題に取り組む「人づくり」と、環境と経済を両立させた「持続可能な社会づくり」を目的とし、地球環境に関する幅広い基礎知識の習得を促す検定試験。東京商工会議所を中心に全国の商工会議所が連携して運営している。試験は年に2回、47都道府県・約260カ所にて実施しており、2006年の創設以来、約33万人が受験し、約20万人の合格者が誕生している（2014年3月末日現在）。</p> <p>“エコに関係のないビジネスはない” 世界的な環境意識の高まりにともない、多くの製品やサービスが環境を意識したものに変わってきており、企業においては、ビジネスと環境の相関を的確に説明できる人材の育成が急務となっている。e c o 検定は、ますます多様化する環境問題の知識を幅広く体系的に身に付けることのできる「環境教育ツール」として、多くの企業や大学等にて活用されている。</p> <p>ホームページ URL : http://www.kentei.org/eco/</p>
該当する愛知目標(複数回答可)	目標1、目標19
平成25年度実施内容等	<p>試験日 7月21日、12月15日</p> <p>試験箇所数 約260箇所（商工会議所）</p> <p>受験者数 31,939名</p> <p>合格者数 17,172名</p>
平成26年度実施内容等（予定）	<p>試験日 7月27日、12月14日</p> <p>試験箇所数 約260箇所（商工会議所）</p>

国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)

関係団体・関係省庁の取り組み

団体名：一般社団法人 大日本水産会

名称	マリン・エコラベル・ジャパン
概要・目的	・水産資源の持続的利用や生態系の保全を図るために資源管理活動を積極的に行っている漁業者を認証し、その製品にマリン・エコラベル(MEL)をつけるものです。資源管理に関する活動やその地域特有の自然環境を漁業者が消費者に伝え、共感を持った消費者に MEL 商品を選んで頂く良いムーブメントを育てることが狙いです。この制度の普及により、愛知目標達成への認識を高め生物多様性の保全活動推進を目指します。
該当する愛知目標	・目標1及び目標6
平成25年度実施内容等	<p>☆持続的漁業(生産段階認証)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・橘湾いわし巾着網漁業(長崎) ※累計漁業認証20漁業 <p>☆マリン・エコラベル(MEL)普及推進活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・銀座三越高知フェア(4/24~30)、日本橋三越高知フェア(5/29~6/2) ・北海道ラルズ(7/29~31) <p>☆市民イベント(東京、静岡、高知)、</p> <p>☆国際展示会 シーフードショー(東京、大阪)、FOODEX JAPAN 2014(千葉)、</p> <p>☆生産段階認証取得推進に向けた MEL 制度・普及説明会の実施(北海道、富山、静岡)</p> <p>☆北海道、東北、関東、中部、関西、四国、中国、九州の小売店で MEL 認証水産物の販売実施</p> <p>☆FAO 貿易小委員会(水産エコラベル評価の枠組み等)参加(ノルウェー)</p> <p>☆マリン・エコラベル・ジャパン Facebook ページの立ち上げ</p> <p>☆環境省「環境ラベル等データベース」への登録</p> <p>☆下関市立大学地域共創センターアーカイブ部門学術シンポジウムで MEL の制度説明を実施。</p>
平成26年度実施内容等(予定)	<p>☆持続的漁業(生産段階認証) 1~3件</p> <p>☆生産段階認証取得推進に向けた MEL 制度・普及説明会の実施</p> <p>☆流通加工段階認証取得推進に向けた MEL 制度・普及説明会の実施</p> <p>☆量販店、小売店等 MEL 普及の働きかけ、店頭販売や市民イベント等を通じた消費者への普及啓蒙活動の実施。</p> <p>☆東京、大阪シーフードショー等 B to B イベントへの参加。</p> <p>☆Facebook ページや機関誌による MEL 活動 PR。</p> <p>☆世界マグロ会議で MEL の制度説明を実施。(タイ)</p>

国連生物多様性の10年日本委員会
関係団体・関係省庁の取り組み

団体名：全国漁業協同組合連合会（JF全漁連）

名称	水産多面的機能発揮対策
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・水産業・漁村は、古くから、国民に安全で新鮮な水産物を安定的に提供する役割に加え、国境監視・海難救助による国民の生命・財産の保全、保健休養・交流・教育の場の提供など国民に対して種々の多面的機能を提供する役割を担ってきている。これらの役割のうち、生態系保全や水質浄化等の公益的機能を有する藻場・干潟・浅場・ヨシ帯、サンゴ礁等の機能の維持・回復に資するため、漁業者を中心に構成する活動組織が保全活動やモニタリング、普及啓発等を実施（2010（平成21）年度より）。
該当する愛知目標（複数回答可）	<ul style="list-style-type: none"> ・目標6、目標11
平成25年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・藻場等のモニタリング、保全活動、普及啓発活動の実施・保全活動技術講習会の開催（4回） ・保全活動技術サポートの実施 ・保全活動事例発表会の開催（東京、2014年2月） ・保全活動事例集の作成・配布 ・ウェブサイト等での情報発信。（http://www.hitoumi.jp/）
平成26年度実施内容等（予定）	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度事業の取組を継続。

名称	漁民の森づくり活動
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業者が漁場づくりの一貫として行う植樹活動は、同時に河川流域・沿岸域の浸食防止や土砂崩壊防止、河川・海域環境の改善を通じて生物多様性の確保などのメリットをもたらしている。古来より魚付き林の保護は行われてきており、近年環境意識の高まりから1990年代には漁業者による森づくりに発展し、現在に至っている。
該当する愛知目標（複数回答可）	<ul style="list-style-type: none"> ・目標6、目標11

<p>平成 25 年度 実施内容等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 過去 3 年の作業・植樹本数と参加者 平成 22 年 84,694 本、13,892 人 平成 23 年 60,839 本、12,844 人 平成 24 年 72,764 本、12,777 人 ・ 上記は、公益財団法人海と渚環境美化・油濁対策機構が、環境・生態系維持・保全活動等調査事業漁民の森づくり活動等調査（海の羽根基金事業）にて各都道府県に調査を行い、回答があったものを集計したもの。なお、震災のため平成 23 年～24 年度は岩手県、宮城県、福島県はアンケート実施せず含まれない。 http://www.umitonagisa.or.jp/pdf/morihoukoku3.pdf に報告書を掲載
<p>平成 26 年度 実施内容等 (予定)</p>	<p>(実施後に調査)</p>

国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)

関係団体・関係省庁の取り組み

団体名：(一社) 日本林業協会

名称	里山林の持続的利用を通じた再生手法に関する調査研究
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近年、里山林が放置されてきたことから、森林の機能や景観の喪失、植生遷移による森林生態系への影響が問題となっており、里山林を循環利用することを通じて機能豊かなものに再生するため以下のような課題に関する調査を進め、施策に反映させる ① 生態学から見た里山管理と広葉樹施業 ② 里山林資源のエネルギー利用と山村振興方策 ③ 里山林の持続的利用を通じた再生手法と活用方策 ④ 里山林の新たな管理主体と今後の方向 等
該当する愛知目標(複数回答可)	・ 目標7、目標14、目標15
平成25年度実施内容等	・ 上記③～④
平成26年度実施内容等(予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取りまとめ <p>なお、平成26年度からの新規テーマについて、森林資源の活用等に関するものを中心に、現在、検討調整中</p>

名称	公開講座 「生物多様性と森林の保全」について実施
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・国連において、「国連生物多様性の10年」が決議され、政府としても積極的に取り組んでいくこととしているが、生物多様性と森林の関係、森林の保全に関してどのような取り組みが必要であり、今後どのように行動すべきであるかなど考える
該当する愛知目標(複数回答可)	<ul style="list-style-type: none"> ・目標1
平成25年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・上記内容について、自然保護や生物多様性の保全などに高い識見を有する大学の先生に講演をして頂くとともに、意見交換を行う
平成26年度実施内容等(予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・未定

国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)

関係団体・関係省庁の取り組み

団体名：全国森林組合連合会

名称	
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森林には、災害の防止、地球温暖化防止、生物多様性の保全等様々な公益的機能を有しており、貨幣評価できるものだけでも年間70兆円に及ぶ。森林の適切な保全・管理が必要であり、そのことが生物多様性の保全につながると認識。 ・ 我が国の森林面積は国土の7割の2,500万haであるが、森林組合員の所有面積は1,100万haで、全森林面積の4割以上を占める。 ・ 系統においては平成23年度から「国産材の利用拡大と森林・林業の再生運動」を進めており、系統においては森林施業プランナーが主体となって提案型施業集約化施業による間伐等適正な森林の整備、防護柵等鳥獣害対策、国産材の安定供給に努めている。 ・ 近年、特に問題になっているのは、シカによる植栽木や下層植生の食害、踏みつけによる土砂崩壊、尾瀬沼等で見られる貴重な植物の消失など森林生態系の崩壊であり、生物多様性の保全を図るためにシカの生息状況、被害状況等の把握による防護施設の設置や計画的な個体数管理が必要である。
該当する愛知目標(複数回答可)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標7
平成25年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森林組合トップセミナー (8/1-2 東京、ホテル日航東京) ・ 認定森林施業プランナー公開セミナー (9/24 東京、木材会館)
平成26年度実施内容等(予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森林組合トップセミナー (7/31-8/1 東京、ホテル日航東京) ・ 認定森林施業プランナー対象ワークショップ (複数回)

国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)

関係団体・関係省庁の取り組み

団体名：JA全中

名称	日本農業およびJAグループの取り組みに関する国内外への情報発信
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・全国のJAグループ各組織の取組事例について、情報を収集し、グループ内に発信することにより、取組意識の啓発や取組促進を目指す。 ・具体的な取組内容として、「環境保全型農業推進コンクール」(全国環境保全型農業推進会議主催)等を通じて得た先進取組事例の情報をグループ内に発信。また、海外に対しては、国際会議・イベントにおいて取組事例を紹介し、持続可能な農業および食文化の重要性を発信。
該当する愛知目標(複数回答可)	<ul style="list-style-type: none"> ・目標1、目標4、目標7
平成25年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・第19回環境保全型農業推進コンクール【2013年度】 <ul style="list-style-type: none"> ➢JA愛知みなみエコセンター：共同堆肥化施設を通じた畜糞処理と高品質な堆肥の安定生産。堆肥を地域の耕種農家に供給。 ➢JAそお鹿児島ピーマン専門部会：天敵の利用など化学合成農薬低減のための技術導入。適正施肥による土壌改善。CO2排出量削減に向けたヒートポンプ導入。 ・第3回WF0(世界農業者機構*)総会【2013年4月】 <ul style="list-style-type: none"> ➢日本(新潟県)で開催された第3回WF0総会において、気候変動や食糧安全保障などをテーマとする課題別セッションを通じ、世界の農業者と問題意識を共有。 <p>*世界の農業者の生活向上と農村社会の活性化、会員間の協力促進による世界の食料安全保障への貢献を目的とする。世界37カ国46の農業団体等が加盟(2012年3月現在)。事務局所在地はローマ。</p>
平成26年度実施内容等(予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、情報の収集および国内外への発信に努める。とりわけ、「地球に食糧を、生命にエネルギーを」をテーマに開催される2015年ミラノ万博(*)に向け、出展準備に注力する。 *日本は「共存する多様性」をテーマに参加。JAグループはこの取り組みに協賛し、「多様性を認め合い、尊重する」をコンセプトに出展予定。水資源や環境保護、生物多様性の維持など農業が有する多面的機能に触れ、持続可能な農業の重要性を訴えていく。

国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)

関係団体・関係省庁の取り組み

団体名：(一社)日本旅行業協会

名称	外来種駆除等環境保全活動
概要・目的	・ 外来種駆除を継続させ日本固有の植生に近づけ、ツーリズムにおける環境への意識を高める。
該当する愛知目標(複数回答可)	・ 目標9 (侵略的外来種が制御され、根絶される。) ・ 目標14 (自然の恵みが提供され、回復・保全される)
平成25年度実施内容等	・ 当協会支部がある全国8箇所で外来種駆除等環境保全活動を実践。 ※1
平成26年度実施内容等	・ 当協会支部がある全国8箇所で外来種駆除等環境保全活動を予定。 ※2

※1

No.	実施日	場所	具体的駆除対象	参加人数
1.	6月29日(土)	北海道苫小牧市(ウトナイ湖)	オオアワダチソウの駆除	31名
2.	7月6日(土)	宮城県伊豆沼鳥獣保護区	オオハンゴンソウの駆除	31名
3.	10月5日(土)	山梨県富士河口湖町西湖	オオキンケイギクの駆除	30名
4.	11月16日(土)	愛知県名古屋市港区	藤前干潟での清掃・分別活動	31名
5.	9月7日(土)	兵庫県淡路島	ナルトサワギクの駆除	19名
6.	10月20日(日)	鳥取県大山町大山	セイタカアワダチソウの駆除	27名
7.	11月9日(土)	福岡県福岡市東区志賀島	セイタカアワダチソウ等の駆除	24名
8.	7月6日(土)	沖縄県中頭郡読谷村(沖縄本島)	さんごの苗付体験、生育観察	26名
参加者合計				219名

※2

No.	実施日	場所	具体的駆除対象	参加人数
1.	6月28日(土)	北海道苫小牧市(ウトナイ湖)	オオアワダチソウの駆除	30名
2.	6月7日(土)	宮城県伊豆沼鳥獣保護区	ブラックバス(オオクチバス)の駆除	28名
3.	(調整中)	新潟県	(調整中)	
4.	(調整中)	愛知県名古屋市港区	(調整中)	31名
5.	(調整中)	兵庫県淡路島	ナルトサワギクの駆除	
6.	6月29日(土)	広島県竹原市 的場海水浴場	瀬戸内海沿岸地域の美化活動	38名
7.	5月10日(土)	海の中道海浜公園(福岡市東区)	オオキンケイギクの駆除	59名
8.	(調整中)	沖縄本島北部	(調整中)	
参加者合計				186名

名称	エコツーリズムの振興
概要・目的	・ ツーリズムにおける環境への意識を高める。
該当する 愛知目標（複数回答可）	・ 目標 1 4（自然の恵みが提供され、回復・保全される）
平成 25 年度 実施内容等	・ 尾瀬での実地研修を通して自然を知り、それを守るという意識を高揚させる。
平成 26 年度 実施内容等 （予定）	・ 尾瀬での実地研修実施。

名称	JATA環境基金活動
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の環境保全を担う小学生が取り組んでいる自然をテーマとした環境学習を対象とした「地球にやさしい環境学習支援助成」 ・埼玉県と協業した植林・間伐活動（「JATAの森」）プロジェクト
該当する愛知目標（複数回答可）	<ul style="list-style-type: none"> ・目標1（生物多様性の価値と行動を認識する） ・目標14（自然の恵みが提供され、回復・保全される）
平成25年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・全国の小学校の応募に対し16校（昨年度は9校、11年間では140校）、助成金総額1,319千円の助成を実施した。 ※3 ・6月29日（土）に埼玉県長瀨町宝登山にある「JATAの森」で下草刈りを実施。11月23日（土）に埼玉県秩父市三峰で間伐活動を実施
平成26年度実施内容等（予定）	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度同様の活動を実施予定。

※3

「平成25年度 地球にやさしい環境学習支援助成」助成校一覧

No.	都道府県	学校名	助成内容	主な助成金使途
1	茨城県	水戸市立上大野小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校敷地内にある田んぼにおける米作り ・サケの孵化と放流、 ・野鳥や学校周辺の川の観察 	野鳥観察用望遠鏡
2	東京都	昭島市立拝島第二小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣での植物栽培 ・全校一人一鉢栽培活動（464鉢の花） ・グリーンカーテンの栽培 	花苗・肥料、ゴミ袋（芝生管理）
3	東京都	大田区立馬込第二小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・プラタプの回収 ・ペットボトル苗の育成 ・壁面の緑化と観察 	デジタルカメラ
4	東京都	清瀬市立清瀬小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校敷地内において植物の栽培 ・敷地内の雑草の抜き取り作業 	雨水タンク、集水器、ホームダム用品、雨どい
5	東京都	国立市立国立第六小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校敷地内荒地の整備 ・田んぼの作成、田植え ・ホタルの観察 	水槽、培養土、デジタルカメラ

6	東京都	※多摩市立北諏訪小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーンカーテンづくり、花壇整備 ・屋上の太陽光パネルの活用により、野菜工場の設置など 	家庭用野菜工場キット
7	東京都	中野区立西中野小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・「ゴーヤの緑のカーテン」づくり ・農耕地の整備 	ホワイトボード、デジタルカメラ
8	東京都	町田市立つくし野小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・再生可能エネルギー学習 ・畑で野菜の栽培 ・プールのヤゴ救出 	ハンドマイク、デジタルカメラ1個、肥料・野菜のタネ・農業資材
9	新潟県	※佐渡市立小木小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・トキについての学習 ・エサ場であるビオトープ作り 	デジタルカメラ
10	滋賀県	豊郷町立豊郷小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・プルトップやペットボトルキャップ集め ・びわ湖清掃活動 ・給食残寧滓 	一輪車、ブロック、土、軍手、ゴミ袋
11	滋賀県	豊郷町立日栄小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・全国一斉除草活動 ・びわ湖の清掃活動 ・エコキャップ回収 	エコダスター、一輪車、竹ぼうき、竹くまで、デジタルカメラ
12	大阪府	泉佐野市立佐野台小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の木材屋と一緒に間伐材をつかった木札づくり ・桐を植樹し、7年後を見守る。 ・うみがめを救う取り組み 	軍手・ゴミ袋・リヤカーなど
13	大阪府	泉佐野市立大木小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・川のゴミ拾い、水質検査 ・大木地区内の探検、調査 ・花いっぱい運動 	採集容器、堆肥製造機、消耗品（模造紙、マジック）など
14	広島県	私立なぎさ公園小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・「宇宙を旅したアサガオ」の育成 ・岩手県小学校へ義援金を贈るなどの交流 	楽々菜園 深型、支柱用フレーム、いぼ竹（農業用支柱）、移植ごて など
15	広島県	廿日市市立玖島小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・大歳川の生態調査 ・野菜や果物、花を育成 	水質調査薬、水温計、簡易ガス検知器セット など
16	広島県	東広島市立御園宇小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培活動 ・地域の一斉清掃活動 ・アルミ缶などのリサイクル活動 	花苗採用用の土・肥料、回収ボックス、くわ・かま など

以上

国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)

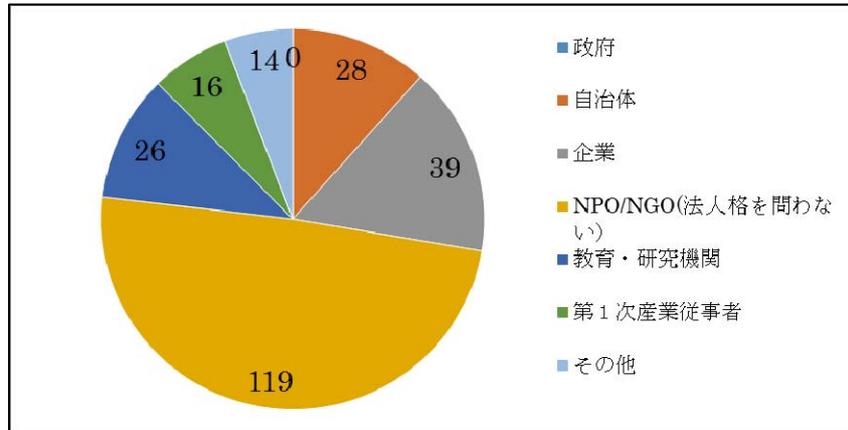
関係団体・関係省庁の取り組み

団体名：国際自然保護連合日本委員会

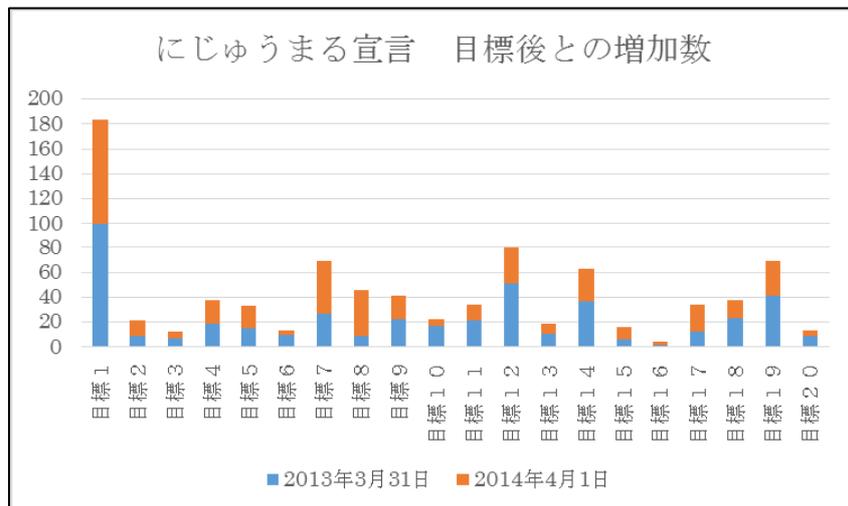
名称	にじゅうまるプロジェクト
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知目標達成に向けた行動を奨励し、見える化（指標化）と行動間の連携を図る目的 ・「愛知目標を知り、自分達の活動とのつながりに気づき、そして、生物多様性のアクションを宣言（にじゅうまる宣言）する。」という参加型キャンペーン。1. 宣言促進、2. 宣言事業間連携、3. 国際情報収集と内外への発信を実施。
該当する愛知目標（複数回答可）	<ul style="list-style-type: none"> ・目標1～20まで
平成25年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・登録拡大（詳細は別途） ・CBD-COP12 準備会合、アジア公園会議等の国際会議の出席と情報収集・報告会 ・愛知ターゲットガイドの制作 ・地域セミナー（愛知・名古屋、四国・高知）、アジア国立公園会議サイドイベント（民間保護地域のテーマ）の開催。 ・認定連携事業の実施（IKITOMO 推進事務局） ・UNDB-J ロゴの折図制作（参考資料） ・丸の内さえずり館、大阪自然史フェスティバルでの展示、特に、エコプロダクツ2013では、愛知ターゲット達成に貢献する団体を一箇所に集中させる「生物多様性ノレッジスクエア」を企画
平成26年度実施内容等（予定）	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度事業（登録の拡大・展示等への出展）は継続します。 ・COP12・第6回世界公園会議でのサイドイベント、協働展示 ・愛知ターゲット最新動向に関する地域セミナー（共催）を、徳島、名古屋、大阪、東京で実施 ・生物多様性主流化関連団体との連携強化（国際会議や国内展示会で連携、生物多様性活動ガイドとして、UNDB-J 関連事業を紹介するなど） ・「市民が守る保護地域」事業の実施。 ・第7回世界自然保護会議誘致事業の着手

にじゅうまるプロジェクト登録状況について

・84 団体 132 事業（2013.3 月末）から、177 団体 244 事業（2014 年 4 月 1 日）とおよそ 2 倍に増加しました。



事業数で算出(1つのNGOが、2種類の宣言していた場合、NGOに2にカウントされている)



目標毎の増加傾向で見ると、田んぼの10年プロジェクトによる、目標7（持続可能な一次産業）の増加が顕著に見られる。

国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)

関係団体・関係省庁の取り組み

団体名：公益社団法人日本植物園協会

名称	植物多様性保全拠点園ネットワーク事業
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保全活動を積極的に担う植物園を中心に、日本の生物多様性の保全に貢献するため、以下の事業を中心に実施する。 ①日本産絶滅危惧植物種の生育特性情報総覧作成(平成23年度～)希少植物の生育特性や栽培方法等のデータベースを作成し、保全や調査、研究に役立てる。 ②植物園での保有植物の把握(平成25年度から5年ごと)全国の植物園での絶滅危惧植物種の生息域外保全状況の調査
該当する愛知目標(複数回答可)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標11, 目標12, 目標13
平成25年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・ ①: 日本の固有種を中心とした特性情報収集、現地調査。 ・ ②: 約50園の植物園の保有植物詳細調査。 ①、②について、関連するワークショップや講演会、シンポジウムを実施。ニュースレター等で広報
平成26年度実施内容等(予定)	<ul style="list-style-type: none"> ①絶滅危惧植物保有状況調査 ②絶滅危惧植物保全データベース ③絶滅危惧植物の情報取り扱い検討 ④ナショナルコレクション検討 ⑤植物多様性保全拠点園ネットワーク活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ ニュースレター発行/各地域の拠点園連絡会議 ・ ラン科拠点園研修/ 種子収集 <ul style="list-style-type: none"> ・ 東北津波被災地の絶滅危惧植物保全の支援

国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)

関係団体・関係省庁の取り組み

団体名：(公社)日本動物園水族館協会

名称	動物園・水族館種保存事業
概要・目的	・動物園・水族館が連携して動物個体の血統登録を行い、動物園・水族館間で動物を移動させペアをつくり繁殖の成果を高めるため
該当する愛知目標(複数回答可)	・目標 12
平成 25 年度実施内容等	・特にツシマヤマネコ域外保全戦略会議及び飼育下繁殖推進会議を設置し保護収容個体をもちいて保護増殖事業を実施 ※ 9 動物園が参加
平成 26 年度実施内容等(予定)	・ツシマヤマネコをはじめ 143 種の域外保全・繁殖を予定。 また新たにライチョウの域外保全に取り組む予定

名称	いのちの博物館実現プロジェクト
概要・目的	・絶滅危惧種をはじめ多様な生物の保全繁殖やその必要性の啓発を行っている動物園・水族館を「いのちの博物館」ととらえ、大学、NPO と連携しながら、より効果ある活動を考えるシンポジウムを全国展開し、市民の生物多様性への理解と支援に結び付ける
該当する愛知目標(複数回答可)	・目標 1 ・目標 12
平成 25 年度実施内容等	・第 3 回 JAZA シンポジウム いのちの博物館の実現に向けて (9 / 1 ・京都) ・第 4 回 JAZA シンポジウム いのちの博物館の実現に向けて (11 / 2 ・広島)
平成 26 年度実施内容等(予定)	・第 5 回 JAZA シンポジウム いのちの博物館の実現に向けて (7 / 6 ・富山) ・第 6 回 JAZA シンポジウム いのちの博物館の実現に向けて (2 / 7 ・仙台)

国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)

関係団体・関係省庁の取り組み

団体名：国連生物多様性の10年市民ネットワーク

名称	CBD/COP12 に向けた日韓 NGO 連携構築事業
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2014 年 10 月に韓国ピョンチャンで開催される CBD/COP12 に向けて韓国 NGO と連携を構築し、COP12 において愛知ターゲット達成に向けて意欲的な成果を導きだすことを目的とする。 ① 日韓 NGO ミーティングの開催 ② SBSTTA への参加 ③ 市民に対する COP12 の普及啓発活動
該当する愛知目標(複数回答可)	・ 目標 1
平成 25 年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・ ①については、2013 年 9 月(釜山)、10 月(釜山)、2014 年 2 月(大阪) ・ ②については、SBSTTA17 に 3 名派遣し、報告会を開催。 ・ ③については、東京と大阪の二か所で、COP12 に向けた勉強会とイベント準備会合を開催。
平成 26 年度実施内容等(予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ①については、 ・ ②については、SBSTTA18 (6 月)に参加し、7 月に報告会を開催。 ・ ③については、2014 年 5 月に韓国ゲストを呼び東京と大阪でイベント開催。COP12 開催までに、2 回 COP12 の普及啓発イベントを開催予定。

名称	UNDB 市民ネット機関誌発行事業
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機関誌「TOWARDS2020」を発行し、活動紹介にとどまらず、アカデミックな立場からの論文も掲載するなど「国連生物多様性の10年」に関する地域レベル、国レベル、国際レベルのバランスに配慮したものを刊行する。
該当する愛知目標(複数回答可)	・ 目標 1

平成 25 年度 実施内容等	・ 準備を発刊
平成 26 年度 実施内容等 (予定)	・ 2 回発行予定。

名称	Web 調査「いきもの意識しらべ」
概要・目的	・ 愛知目標を普及啓発するための戦略をたてるため、一般市民及び NGO の意識調査
該当する 愛知目標(複 数回答可)	・ 目標 1
平成 25 年度 実施内容等	・ 3 万人からの Web 調査を行った。 ・ 300 人の NGO の調査を行った。
平成 26 年度 実施内容等 (予定)	・ Webにて第二弾調査をし、市民意識の定点観測を実施する。

名称	生物多様性地域戦略の策定推進事業
概要・目的	・ 自治体の地域戦略推進を促す。
該当する 愛知目標(複	・ 目標 17

数回答可)	
平成 25 年度 実施内容等	・ 魚津市役所にて生物多様性地域セミナー「生物多様性地域戦略の意義と有効活用」を開催・
平成 26 年度 実施内容等 (予定)	・ 秩父市、八王子市にて地域戦略の策定推進を行う予定。

名称	一般市民への生物多様性普及啓発事業
概要・目的	・ ホームページやパンフレットの作成など SNS や生物多様性に関するプレスリリースを積極的に行い、一般市民の生物多様性の認識を深める。
該当する 愛知目標(複 数回答可)	・ 目標 1
平成 25 年度 実施内容等	・ ホームページリニューアル ・ 生態系サービスを内容としたパンフを作成 ・ フェイスブック、ツイッターの活用
平成 26 年度 実施内容等 (予定)	・ ホームページの記事の充実 ・ パンフの配布 ・ SNS の活性化

名称	生物多様性ホットスポット可視化事業
概要・目的	・ 生物多様性が豊かだが危機的状況にある地域の保全、取組みの推進。

該当する 愛知目標(複 数回答可)	・ 目標 5、目標 9、目標 10、目標 12、目標 14
平成 25 年度 実施内容等	・ ホットスポット評価としてCI ジャパン、CEPA ジャパンらとKBA 評価
平成 26 年度 実施内容等 (予定)	・ 日本ホットスポット地図の作成 ・ ホットスポット地域の NGO サポート ・ ホットスポットターズ・ミーティングの開催 ・ KBA 評価の継続

名称	たねと農業関連事業
概要・目的	・ 在来種のたね保全の推進
該当する 愛知目標(複 数回答可)	・ 目標 7、目標 13、目標 18
平成 25 年度 実施内容等	・ 世界農業遺産会議へ参加
平成 26 年度 実施内容等 (予定)	・ 4 月ソウル市、韓国都市農業市民協議会主催「第一回在来種祭」に 参加。(開催済み) ・ 9 月「たねに関する日韓共同研究」に参加。 ・ 日本のたね保存実践者の資料作成。

国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)

関係団体・関係省庁の取り組み

団体名：一般社団法人 CEPA ジャパン^o

名称	生物多様性の CEPA 活動
概要・目的	<p>1.MY 行動宣言 5つのアクション(Iki・Tomo 推進事務局としての役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国民一人ひとりが生物多様性との関わりを自分の生活の中でとらえることができるよう、5つのアクションの中から自らの行動を選択して宣言する「MY 行動宣言シート」の活用を広く呼びかけました。 <p>2. MY 行動宣言 5つのアクションのモデルとなる取組の表彰—生物多様性アクション大賞による表彰</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生物多様性の自分ごと化」を促し、日々の仕事や暮らしの中での生物多様性の保全や持続可能な活用の活動事例の掘り起しとして、5つのアクションに基づいて公募・表彰しました。 ・企業等に寄付協賛を呼びかけ、MY 行動宣言の5つのアクションに即した活動を表彰する「生物多様性アクション大賞 2013」を実施 ・1回目の 2013 年度は、122 件の応募があり 19 件が受賞しました。 ・授賞式では、自然観察会とワークショップを実施しました。 <p>3.「いきものぐらし」*ウェブサイトでは、5つのアクションの視点で、各地で行われている活動を紹介しました。さらに、ウェブのトップページでは、二十四節気七十二候を表した季節の変化と美しいイラストを紹介しています。</p> <p>*「いきものぐらし」というタイトルには、私たちも含めた生きもの同士が共生する持続可能な暮らしのことを表しています。</p> <p>4.国内最大級の環境イベント「エコプロダクツ展」で、My 行動宣言5つのアクション活用した展示を実施しました。</p> <p>2013 年は、国際自然保護連合日本委員会と共同で、生物多様性関係 17 団体を取りまとめ、「生物多様性ナレッジスクエア」として出展、また、各参加団体を回るラリー&ビンゴも取り入れ、より多くの方に5つのアクションを広めました。</p> <p>5.MISIA の生物多様性検定を開発</p> <p>国連本部より COP10 名誉大使に任命された歌手 MISIA と、一般社団法人 mundef、CEPAj 顧問中静東北大学教授の協力で、生物多様性についてクイズ形式で知る CEPA ツール「生物多様性検定アプリ」を開発・発表しました。AppStore 無料ダウンロードできます。</p> <p>6.東北グリーン復興事業者パートナーシップ*で、5つのアクションに基づいた視点で、整理展開しました。Action1. 浦戸の島の食卓をたべよう。Action2.浦戸の自然にふれよう。 Action3. 島の宝を伝えよう。 Action 4.島の自然を守ろう。 Action5.島のおすそ分けシリーズ商品を買おう。</p> <p>*東北グリーン復興事業者パートナーシップとは一東北のあるべき「グリーン復</p>

	興」のビジネスを、現地+都市+事業者をつなぐ商流を定着化する取組。 7.自然観察会「身近な所で生き物のつながりを実感し、秋の実りを楽しもう」in 日比谷公園 都会の公園にも多くの生き物たちが生きています。
該当する 愛知目標（複数回答可）	・ 目標 1.
平成 25 年度 実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内容は上記概要・目的を参照 1. MY 行動宣言 5 つのアクション(継続) 2. 生物多様性アクション大賞の実施(新規) 3. HP「いきものぐらし」での事例展開(新規) 4.「エコプロダクツ展」で「生物多様性ナレッジスクエア」として出展(継続及び新規) 5. MISIA の生物多様性検定を開発(新規) 6.東北グリーン復興事業者パートナーシップの展開(継続及び新規) 7. 自然観察会 in 日比谷公園(新規)
平成 26 年度 実施内容等 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内容は上記概要・目的を参照 1.MY 行動宣言 5 つのアクション(継続) 2.生物多様性アクション大賞の実施(継続及び新規、主催が UNDB-J に) 4. HP「いきものぐらし」での事例展開(継続) 4.「エコプロダクツ展」で「生物多様性ナレッジスクエア」として出展(継続) 5.東北グリーン復興事業者パートナーシップの展開(継続) 6. 自然観察会 in 日比谷公園(継続)

国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)

関係団体・関係省庁の取り組み

団体名：生物多様性わかものネットワーク

名称	ごとごとプロジェクト
概要・目的	・「世の中、まるごと、自分ごと」をキーコンセプトに、生物多様性をはじめ、環境問題を自分ごととして捉え、自分の言葉で発信していくことのできる人材育成を目的としたセミナーを主催。セミナーは「気づき・考え・発信する」をテーマに、各テーマ2回、計6回開催予定。
該当する愛知目標(複数回答可)	・目標1
平成25年度実施内容等	実施なし(平成26年度からの新規事業)
平成26年度実施内容等(予定)	・計6回のセミナーのうち、3回実施(平成26年6月時点) ・7月5日(土) 中間発表プレゼンテーション ・8月10日(日) 自然・文化、伝統の体験 ・8月30日(土) 最終発表プレゼンテーション (日程は予定)

名称	国際会議への参画
概要・目的	・生物多様性に関する国際的な若者ネットワークへの参画 ・国際的な動向の収集や活動を行うことのできる人材の育成 ・若者の立場としての政策提言活動の実施 上記3点を目的として国際会議への若者の派遣を実施。
該当する愛知目標(複数回答可)	・目標1
平成25年度実施内容等	・SBSTTA17の参加 ・第一回アジア国立公園会議の参加 ・会議参加報告会の実施等

平成 26 年度 実施内容等 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生物多様性条約 COP12 への若者の派遣・情報収集 ・ 国際会議報告会等
---------------------------	--

名称	生物多様性わかもの活動概況（名称仮）
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国内の生物多様性に関する活動を行う若者の活動の概況についてアンケート調査などを用いて把握を行うとともに、特に先駆的な活動事例などを発信することで、生物多様性の主流化に貢献する。 ・ アンケート調査にあたっては、愛知目標に沿って活動内容の把握を行い、アンケート対象者に対してにじゅうまるプロジェクトの登録を促し、若者の登録数の増加を狙う。
該当する 愛知目標（複数回答可）	・ 目標 1、目標 19
平成 25 年度 実施内容等	・ 特になし（平成 26 年度よりの新規事業）
平成 26 年度 実施内容等 (予定)	<p>平成 26 年度は大学の環境サークルを主な対象として活動概況の把握を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10 月 CBD-COP12 進捗報告用のパンフレットで成果発信 ・ 10 月 UNDB-J 全国ミーティングで進捗を発表 ・ 3 月 生物多様性わかもの活動概況 発行

名称	生物多様性わかもの会議
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国で活動している若者が集まり、互いの活動やその悩みなどの情報交換の場となり、連携を促進する。
該当する 愛知目標（複数回答可）	・ 目標 1、目標 19

<p>平成 25 年度 実施内容等</p>	<p>・参加者から企画持ち寄りの分科会形式で実施。 テーマ例 「生き物の面白さを伝えるために」 「国際会議のイロハ」 「ガーデニングに潜む落とし穴」 「自然保護とは、そして自然を守る力の引き継ぎ方」 「多様な人と生き物をつなぐ拠点づくり～公園の管理と生物多様性～」</p>
<p>平成 26 年度 実施内容等 (予定)</p>	<p>・平成 26 年 9 月実施予定。 詳細については現在企画中。</p>

国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）

関係団体・関係省庁の取り組み

団体名：一般財団法人 自然公園財団

名称	自然ふれあい行事の実施
概要・目的	・生物多様性に対する認識・知識の普及を促進を目的として、財団の支部で、動植物の観察会、ガイドウォーク、植樹会などを企画し、実施。
該当する愛知目標（複数回答可）	・目標1
平成25年度実施内容等	・全国20カ所の支部で延べ約700回実施、参加者約19,000名
平成26年度実施内容等（予定）	・25年度と同様に実施

名称	野生動物写真コンテスト
概要・目的	・生物多様性への関心と理解の促進、日本の野生動物の生態の記録保存を目的として、誰もが参加できる写真コンテストを実施
該当する愛知目標（複数回答可）	・目標1
平成24年度実施内容等	・応募期間 6月～12月。24年12月作品選考会 応募作品数約1,500点 ・入選作品（36点）は、全国20カ所程度の国立公園ビジターセンター等を巡回展示。また、他団体・機関等の要請に応じ、出版物、パンフレット等に提供
平成25年度実施内容等（予定）	・25年度と同様の内容で実施

国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)

関係団体・関係省庁の取り組み

団体名：SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク

名称	SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・国内における「SATOYAMA イニシアティブ」プラットフォームの構築 ・SATOYAMA における生物多様性の保全や利用の取組の裾野拡大と更なる推進を図る
該当する愛知目標(複数回答可)	<ul style="list-style-type: none"> ・目標1、目標5、目標6、目標7、目標14、目標18など
平成25年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーク設立総会の開催(9/13 福井県) ・ネットワーク実務者連絡会議及び会員セミナーの開催(2/26 東京)
平成26年度実施内容等(予定)	<p><スケジュール></p> <ul style="list-style-type: none"> ・総会の開催(8月) ・エコプロダクツ2014出展 ・現地視察や会員セミナーの開催

国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)

関係団体・関係省庁の取り組み

団体名：公益財団法人 日本自然保護協会 (NACS-J)

名称	生物多様性の道プロジェクト
概要・目的	・愛知目標達成のため、生物多様性地域戦略を実効性のあるものにする取り組みを支援する。自治体やNGO, 地域づくりなどのセクターが、実行体制までをつくりやすくする手法、ノウハウを広める。
該当する愛知目標(複数回答可)	・目標1 目標17
平成25年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドブック『ココからはじめる生物多様性地域戦略 地方自治体・実践事例集』を発行、この冊子を活用したセミナーを開催(東京)。地域の取り組みを支援する「出前講座」を全国3カ所(愛媛内子町、佐賀県、沖縄県)で開催。 ・自治体職員向け生物多様性地域戦略シンポジウムを、鹿児島県と主催で開催。 ・宮崎県綾町で、綾町生物多様性地域戦略の「命ゆたかな綾づくりプラン」策定に向けたアンケート調査、役場職員向け研修会。 ・福井県中池見湿地の協議会への参加、千葉県下総での「暮らしと自然のふれあいマップ」づくり、宮崎県・高知県での講演ほか。
平成26年度実施内容等(予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性を活かした地域づくりに貢献できるプログラムとして人と自然のふれあい調査手法をもとに、コーディネーター養成を試行。 ・「ふれあい調査マップ」を活用した地域づくりのモデル(宮崎県綾町、千葉県下総) ・各地の地域戦略づくり支援、ユネスコエコパークの登録推進支援

名称	自然観察指導員講習会・研修会・企業連携観察会
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・自然観察会のボランティアリーダーを育成し、地域ごとの自然を見守り、保全活動や地域の環境教育の担い手として活躍できる人材を育成する。 ・企業の取り組む観察会活動を協力支援する。
該当する愛知目標(複数回答可)	・目標1

平成 25 年度 実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然観察指導員講習会を 5 月から全国 14 カ所で開催し、671 人の指導員を養成。 ・ 「ミクロな視点」がテーマの全国一斉自然観察会を全国の指導員・会員に呼びかけ、同テーマの自然観察会が全国で 50 回開催された。 ・ 「リスクマネジメント研修会」を自然観察指導員三重連絡会と共催。 ・ 「ネイチャア・フィーリング研修会」を南アルプス市、NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会との共催で 2 回開催。宮城県南三陸町で開催したフォローアップとして冊子「磯のガイドブック」を共同発行。「海藻おしばづくりで三陸の海を知る」研修会を開催。 ・ 新宿御苑みどりフェスタにてネイチャア・フィーリング自然観察会を 40 名のリーダーと協力して開催。(約 70 名の一般参加。 ・ 企業への自然観察会企画の提案依頼対応 (6 社、のべ 294 人参加)
平成 26 年度 実施内容等 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然観察指導員講習会を 5 月から全国 15 カ所で開催。「地域の自然を理解する研修会 (長野)」「自然しらべと水辺と外来種研修会 (愛知)」、「ネイチャア・フィーリング研修会 (関東)」等のフォローアップ研修会を開催。 ・ セミナー「観察会の道具箱」を 4 回開催 (東京) ・ SONY, 明電舎、サニクリーン、共同印刷、ニコンほか企業の観察会、エコツアープログラムの提供、支援。

名称	自然しらべ ～身近な生きものから見えてくる生物多様性～
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「自然しらべ」は、子どもから大人まで誰もが身近な場所で観察できる「生きもの」や「自然環境」を観察してしらべることを通じ、生きもの同士のつながりや自然の大切さに気づき、尊重する心を育むことを目的に 1995 年から開始。全国で一斉にしらべ、地域の自然の状態を知る手がかりとなるデータを集め、日本自然保護協会で解析し、「自然の健康診断」も同時に行う。
該当する 愛知目標(複数回答可)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標 1、目標 9、目標 12
平成 25 年度 実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然しらべ 2013「日本のカメさがし!」。日本にはニホンイシガメなど 6 種類の在来のカメが生息。近年、ミシシippiaカミミガメなど外来のカメが増える一方、在来のカメが全国的に減少。全国から届いた記録は 10,032 匹、調査地点は 1,474 カ所、参加者は 3,512 名。

平成 26 年度 実施内容等 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・自然しらべ 2014「赤とんぼさがし!」。空を自由に飛び回るトンボ、幼虫であるヤゴは水中で育ち、成虫は水辺を含む多様な空間を利用して生活する昆虫。近年各地で数を減らす傾向。「赤とんぼがいる風景」写真コンテストも開催。
---------------------------	---

名称	東日本海岸調査／東北沿岸レジリエンス・自然資本価値の評価と、震災復興の実践
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本震災後、沿岸域のエコトーン（移行帯）の自然環境が有するレジリエンス（回復力）や生態系サービスが、防災や国土強靱化の観点からも注目されている。 ・海岸の植物群落の現状と、人々のこれまでの海とのかかわりや、今後への想いといった「海とのふれあい」の双方を明らかにし、今後の生物多様性保全と持続可能な地域の復興に役立てる。 ・エコトーンが持つ回復力や自然資本としての価値を評価するため、東北沿岸の環境・社会学的調査を行い、地域の自然を社会資本とした復興の取り組みを実践する。
該当する 愛知目標（複数回答可）	<ul style="list-style-type: none"> ・目標 1、目標 2、目標 3、目標 6、目標 7、目標 11、目標 14
平成 25 年度 実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本海岸調査：「防潮堤まつり～未来の海辺に何を残すか～」を（共催：NPO 法人森は海の恋・会場：モンベル品川店） ・気仙沼市西舞根地区と南三陸町戸倉地区の山から海に至る自然の連続性を把握のため、植生調査、水環境・水生昆虫調査、アマモ場調査を実施。 ・「南三陸町を見つめ、未来を語るフォーラム」実行委員会に参画し、復興事業への自然環境への影響を検証した調査結果を報告。・宮城県南三陸町での自然観察指導員講習会の開催。
平成 26 年度 実施内容等 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・東北の三陸復興国立公園内外における環境調査・社会調査（ふれあい調査） ・フィールドミュージアム構想における地域の自然資本を活かした復興の試行 ・地域の農業と重要な湿地との共存の在り方を試行 ・沖縄・嘉陽海岸における環境に与える負荷が少ない先駆的な護岸工事の事例の評価および東北との比較 ・沿岸域の自然の環境経済的価値に関する予備調査 ・津波後の沿岸生態系のレジリエンスの評価

国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)

関係団体・関係省庁の取り組み

団体名：地球環境パートナーシッププラザ (GEOC)

名称	国連大学との協働による生物多様性の普及啓発
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・国連大学との連携・協働により、生物多様性の国際的情報の収集、国内への発信及び GEOC を活用した生物多様性の普及啓発を実施 ①国際生物多様性の日シンポジウム（平成 20 年度～） 国連大学において、毎年、生物多様性の日シンポジウムを共同開催 ②GEOC の場を活用した、生物多様性保全、国連生物多様性の 10 年日本委員会 (UNDB-J) に関する展示、セミナー等の普及啓発事業を展開
該当する愛知目標(複数回答可)	<ul style="list-style-type: none"> ・目標 1、目標 2
平成 25 年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・国際生物多様性の日シンポジウム「三陸復興国立公園の創設から考える 生態系サービスの強化と持続可能な地域社会の構築」(5/22) ・2014「世界湿地の日」シンポジウム湿地と農業－水田の生物多様性を育む取り組み－(2/2) ・「未来へつなぐ、里山・里海」展 －三陸復興国立公園、世界農業遺産「能登/佐渡」－(5/15～6/29) ・UNDB-J 推薦「子供向け図書」(愛称：「生物多様性の本箱」～みんなが生きものをつながる 100 冊～) 展示(通年)
平成 26 年度実施内容等(予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・国際生物多様性の日シンポジウム「つながりと個性を活かした 自然と共生する島づくり」(5/22) ・「国連生物多様性の 10 年」展示(通年) ・UNDB-J 推薦「子供向け図書」(愛称：「生物多様性の本箱」～みんなが生きものをつながる 100 冊～) 展示(通年)

国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）

関係団体・関係省庁の取り組み

団体名：公益社団法人国土緑化推進機構

名称	普及啓発教材「森の恵み」「1本の木の物語」制作・配布 （「生物多様性と子どもの森」キャンペーン実行委員会 連携）
概要・目的	・幅広い子どもたちが、「3つの多様性」（生きものとの繋がり）と「4つの生態系サービス」（暮らしとの繋がり）を一体的に理解できるような教材として制作・配付。
該当する愛知目標	・目標1：生物多様性の価値と行動の認識
平成25年度実施内容等	・教材の制作・配布 [第1弾]「森の恵み」（3つの多様性、4つの生態系サービス） [第2弾]「一本の木の物語①」（サクラ・コナラ・カエデ・スギ） [第3弾]「一本の木の物語②」（イチヨウ・クスノキ・ケヤキ・マツ） ・学校等での教材を活用したモデル実践（日本森林インストラクター協会等連携）
平成26年度実施内容等（予定）	・教材の作成・配布（樹種の拡充：全国の都道府県の木に対応） ・制作した教材の書籍化（全国の学校図書館等への導入が目標） ・教材を活用した地域・学校等におけるモデル的・発展的実践

名称	グリーンウェイブ2014「東北復興・海岸林再生記念植樹祭2014」 （国連生物多様性の10年日本委員会 共催）
概要・目的	・東日本大震災の大津波で失われた140kmを超える海岸防災林等の再生に向けて、民間団体等の参画を推進しているところ。 ・幅広く全国・世界に海岸防災林再生等の現段階を発信するため、宮城教育大学や宮城県農業高等学校、地域住民等の参加を得て、「グリーンウェイブ」の一環で日本野球機構と連携した植樹祭を実施。（NHKの全国放送で紹介。東北3県で関連団体による植樹祭も実施し、当該活動もNHK全国放送や地域メディアで紹介）
該当する愛知目標	・目標1：生物多様性の価値と行動の認識 ・目標15：劣化した生態系の15%以上の回復を通じ気候変動緩和・適応に貢献
平成25年度実施内容等	・企業・NPO等による民間参画に向けた情報発信・機運の醸成 ・海岸防災林等再生活動の手引き制作 ・被災地の地場産業等の復興支援と連動した民間参画の促進
平成26年度実施内容等（予定）	・参画した企業・NPO等による活動への専門家等による指導・助言 ・被災地の地場産業等の復興支援と連動した民間参画の促進 ・海岸防災林等再生活動の現段階の世界への発信

名称	みどりの感謝祭「みどりとふれあうフェスティバル」 (経団連自然保護協議会、「生物多様性と子どもの森」キャンペーン実行委員会等出展)
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4月15日～5月14日の「みどりの月間」のフィナーレとして開催され、5月22日の「生物多様性の日」を間近に控えた5月第2土曜日・日曜日に開催される式典・フェスティバル。 ・ 自然豊かな日比谷公園を舞台に、親子で楽しめる体験プログラムやステージプログラム、企業・NPO等の出展ブースを設置して、都市部で生物多様性の恵みにふれ、親しみ、学ぶ場を設定。
該当する愛知目標	・ 目標1：生物多様性の価値と行動の認識
平成25年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 式典（秋篠宮両殿下、衆議院議長・参議院議長等臨席した各種表彰行事） ・ ステージプログラム（ガチャピン、スヌーピー、映画WOODJOB!矢口監督等出演） ・ 体験プログラム（森のようちえん、ツリークライミング、クラフト、木育ひろば等） ・ 出展ブース（企業・自治体・NPO等のブース。Mottainai手づくり市も併催） ・ スタッフリ（都内のみどりと木にふれあえる13施設と連携して実施）
平成26年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成25年度と同一内容で実施予定（プログラム等を拡充予定）

名称	エコプロダクツ2013「森林からはじまるエコライフ展」 (「生物多様性と子どもの森」キャンペーン実行委員会 連携)
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生物多様性保全等に向けた「森づくりの循環」の再生に向けた森林に関わるテーマゾーンを設定するとともに、シンポジウムやステージプログラム、ワークショップ、会場木装化を実施。 ・ 「生物多様性と子どもの森」キャンペーン実行委員会と連携して、「グリーンウェイブ」への参加呼びかけに向けた展示・ワークショップ・トークショー等を実施
該当する愛知目標	・ 目標1：生物多様性の価値と行動の認識
平成25年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・ テーマゾーン（幅広い企業・自治体・NPOによる展示・ワークショップを実施） ・ シンポジウム（経団連自然保護協議会等と連携した記念シンポジウムを開催） ・ ステージ（スヌーピー、隈研吾氏、映画WOODJOB!矢口監督等出演） ※平成24年度は、生物多様性条約事務局長が出演したステージも実施 ・ スタッフリ（会場内の約60の企業・自治体・NPO等のブースと連携して実施） ・ 会場木装化（自然素材の木でエントランス、ステージ、お休み処等を設置）
平成26年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成25年度と同一内容で実施予定（プログラム等を拡充予定） ・ 7月18日締切で出展団体を募集中

名称	「グリーンウェイブ 2014」キックオフ・フォーラム (「生物多様性と子どもの森」キャンペーン実行委員会 連携)
概要・目的	・幅広いセクターへの「グリーンウェイブ」の普及・定着に向けて、行政・大学・企業・NPO等によるグッドプラクティスの紹介や、関係省庁やサポート団体によるコンテンツ・普及啓発資材等を紹介するセミナーと、サポート団体によるポスター展示等を実施。
該当する愛知目標	・目標 1 : 生物多様性の価値と行動の認識
平成 25 年度実施内容等	各年度ともに以下の団体等の取組事例等を実施 [平成 24 年度] 「生物多様性と子どもの森」キャンペーン実行委員会に参画するサポート団体・全国団体等 [平成 25 年度] 行政 (川崎市・木津川市)・企業 (積水化成品・ヤクルト) [平成 26 年度] 行政 (鳥取県・石川県)・大学 (宮城教育大学)・企業 (ブリヂストン)・NGO (オイスカ)
平成 26 年度実施内容等	・活動の実践をより喚起する機会となるような方法で実施予定

名称	「野鳥による生物多様性に富んだ森づくり」事業 (公益財団法人日本野鳥の会 連携/緑と水の森林ファンド事業)
概要・目的	植物種子の繁殖戦略において、動物、特に野鳥による種子散布の貢献度は極めて大きいと考えられるが、関連する資料は種が限定されていたり(野鳥と採餌植物に関する相関表など)、断片的な研究報告等に限られる。そこで、資料整理と実証調査、学識経験者らによる検討委員会の開催により、「野鳥等の野生生物による生物多様性に富んだ森づくり」のためのマニュアルとパンフレットを制作する。
該当する愛知目標	・目標 1 : 生物多様性の価値と行動の認識 ・目標 5 : 森林を含む自然生息地の損失を半減→ゼロへ、劣化・分断を 顕著に減少
平成 25 年度実施内容等	・野鳥採餌植物の調査や情報収集を行い、相関表を整理 ・野鳥生息データや経年の植生変化の把握・分析を進め、野鳥による種子散布の実態を把握するとともに、二か所の対象調査区を中心に、野鳥による種子散布と生物多様性創出に係る実証調査 ・「野鳥等の野生生物による生物多様性に富んだ森づくり」のためのマニュアルの整備 ・同普及パンフレットの整備
平成 26 年度実施内容等	・

国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)

関係団体・関係省庁の取り組み

団体名：生物多様性自治体ネットワーク

名称	生物多様性ミニフォーラム
概要・目的	・生物多様性の保全や持続可能な利用に関する自治体の取組及び成果に関する情報共有と発信
該当する愛知目標(複数回答可)	・目標1：生物多様性の価値と行動の認識
平成25年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年11月9日(豊岡市にて開催) 対象：自治体ネットワーク会員自治体、一般市民(合計60名程度) ① 基調講演 涌井史郎氏(UNDB-J委員長代理) <li style="padding-left: 20px;">「生物多様性の潮流」 <li style="padding-left: 20px;">中貝宗治氏(豊岡市長) <li style="padding-left: 20px;">「豊岡の挑戦」 ② ディスカッション <li style="padding-left: 20px;">「生物多様性地域戦略について」 ※自治体ネットワーク総会と合わせて開催
平成26年度実施内容等(予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年10月24日(愛知県にて開催) 対象：自治体ネットワーク会員自治体、一般市民 ① 基調講演 ② テーブルセミナー ※自治体ネットワーク総会と合わせて開催

名称	5月22日「国際生物多様性の日」の自治体による一斉PRの展開
概要・目的	・生物多様性の浸透、主流化を一層推進するため、「国際生物多様性の日」を契機として、構成自治体が一斉に統一したロゴマークを活用した発信やホームページ、ポスターでの生物多様性の啓発活動及び取り組みについて発信
該当する愛知目標(複数回答可)	・目標1：生物多様性の価値と行動の認識
平成25年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体ネットワークロゴマーク作成、活用(5月) ・「国際生物多様性の日」についてホームページ、ポスターでの発信(5月16日～) ※上記の自治体ネットワーク事業を各報道機関に同日プレス発表
平成26年度実施内容等(予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・「国際生物多様性の日」についてホームページ、ポスターでの発信(5月15日～) ※上記の自治体ネットワーク事業を各報道機関に同日プレス発表

国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）

関係団体・関係省庁の取り組み

団体名：外務省

名称	外務省
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の政府機関 ・地球環境に関する国際条約等（生物多様性条約、ワシントン条約、バーゼル条約等）に関する日本の対外政策を管轄 ・環境に関する活動支援を含めた政府開発援助（ODA）の施策を管轄
該当する愛知目標（複数回答可）	<ul style="list-style-type: none"> ・すべて
平成25年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・締約国会議（COP）の準備会合であるSBSTTAへの締約国としての参画
平成26年度実施内容等（予定）	<ul style="list-style-type: none"> ・締約国会議（COP）の準備会合であるWGRIおよびSBSTTAへの締約国としての出席 ・COP・MOPへの締約国としての出席 <p style="text-align: right;">等</p>

国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）

関係団体・関係省庁の取り組み

団体名：文部科学省

名称	環境を考慮した学校施設（エコスクール）の整備推進
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境問題への対応が喫緊の課題となっている中、省エネルギー化や二酸化炭素排出量の削減、環境教育にも寄与するエコスクールの整備を推進するため、以下の事業を実施。 ○環境を考慮した学校施設（エコスクール）の整備推進に関するパイロット・モデル事業（平成9年度～） 農林水産省（内装の木質化）、経済産業省（太陽光発電及び熱利用設備等）及び国土交通省（建築物の省CO2化）と連携協力しつつ、環境教育の教材として活用できる環境を考慮した学校施設の整備に対し国庫補助を行う。
該当する愛知目標（複数回答可）	・目標1
平成25年度実施内容等	・平成25年度は、112校をモデル校として認定。 平成9年度からの累積1,484校。
平成26年度実施内容等（予定）	・平成26年度は、63校をモデル校として認定。 平成9年度からの累積1,547校。（平成26年6月時点）

名称	公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・環境保全などの地域における様々な現代的課題に対し、地域に蓄積したソーシャル・キャピタル（社会関係資本）である公民館等が、関係諸機関と連携・協働して実施する先進的な取組を支援するとともに、それらを全国に広く周知することにより、全国的な課題解決へとつなげる。
該当する愛知目標（複数回答可）	・目標1
平成25年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・環境教育を取組の中核に据えた事業を2件採択した。 その他にも、周辺の自然環境を「地域の資源」と捉え、保全・活用を図る事業を採択し、協働で事業推進にあたった。

平成 26 年度 実施内容等 (予定)	・ 環境教育を主たる内容とする事業を数件採択予定（平成 26 年 6 月 時点）
---------------------------	---

名称	環境教育の実践普及（学校における環境教育の取組について）
概要・目的	・ 環境教育の内容が充実された現行の学習指導要領の趣旨等を踏まえ、学校における環境教育の推進のため、「環境教育の実践普及」を実施。
該当する 愛知目標（複 数回答可）	・ 目標 1
平成 25 年度 実施内容等	「環境教育の実践普及」として、以下の事業を実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境のための地球規模の学習及び観測プログラム（グローブ）への参加・環境測定の実施（参加校の指定・支援） ・ 環境教育等に関する教職員・環境保全活動を担う者に向けた研修（環境教育リーダー研修）（平成 26 年 2 月開催）
平成 26 年度 実施内容等 (予定)	「環境教育の実践普及」として、以下の事業を実施予定 <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境のための地球規模の学習及び観測プログラム（グローブ）への参加・環境測定の実施（参加校の指定・支援） ・ 環境教育等に関する教職員・環境保全活動を担う者に向けた研修（環境教育リーダー研修）

国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)

関係団体・関係省庁の取り組み

団体名：農林水産省

名称	農林水産省における生物多様性に関する対策の推進
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農林水産省生物多様性戦略、及び生物多様性国家戦略 2012－2020 に基づき、生物多様性をより重視した農林水産業の推進、及び農林水産業の生物多様性へ貢献する取組の推進。 ① 生物多様性を重視した農林水産業への理解推進 ② 田園地域・里地里山における保全 ③ 森林における保全 ④ 里海・海洋における保全 ⑤ 遺伝資源の保全と持続可能な利用の推進 ⑥ 生物多様性評価手法の開発
該当する愛知目標(複数回答可)	・ 愛知目標 1, 3, 5, 6, 7, 8, 11, 12, 14, 15
平成 25 年度 実施内容等	・ 25年度は、農林水産省の事業として①～⑥の取組を実施。
平成 26 年度 実施内容等 (予定)	・ 26年度は、農林水産省の事業として①～⑥の取組を実施。

国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)

関係団体・関係省庁の取り組み

団体名：経済産業省

名称	経済産業分野における生物多様性関連の取組み
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生物多様性条約に掲げられている3つの目標のうち「遺伝資源の利用から生ずる利益の公正かつ衡平な配分」に対応するため、バイオ産業界が遺伝資源に円滑にアクセスできる環境の整備等
該当する愛知目標(複数回答可)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標16
平成25年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済産業省では、遺伝資源に円滑にアクセスできる環境を整備するため、遺伝資源へのアクセスに係る手引き作成、諸外国の遺伝資源政策に関する情報の発信、説明会の開催及び相談窓口の設置等を実施。 ・ (独)製品評価技術基盤機構では、アジア諸国の政府機関との間で遺伝資源に係る覚書等を締結し、共同探索事業等を通じて採取された海外由来の微生物遺伝資源について、我が国産業界が円滑に活用できるよう枠組みを構築し、提供を実施。
平成26年度実施内容等(予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 微生物遺伝資源の提供 ・ 遺伝資源に円滑にアクセスできる環境整備等

国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）

関係団体・関係省庁の取り組み

団体名：国土交通省

名称	多様な主体の連携・協働による東京湾再生の推進（※東京湾再生官民連携フォーラムによる取り組み）
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東京湾の再生に意欲を持つ一般市民、NPO/NGO、水産業、事業者、レジャー産業、大学・研究機関、自治体、関係省庁等、自主的に参画する多様な主体により構成され、東京湾再生に向けた活動の輪を拡げるとともに、活発化・多様化を図る。 ・ 東京湾再生に係る課題や知見、再生のための取組、ノウハウ等を共有し、改善方策を検討する。 ・ フォーラムを構成する多様な主体の交流の場を提供し、ネットワークを構築する。 ・ 東京湾再生推進会議による「東京湾再生のための行動計画（第二期）」に基づく取組その他、東京湾再生に向けて検討又は実施すべき事項等について、多様な主体の総意をとりまとめ、東京湾に関わる関係省庁及び自治体から構成される「東京湾再生推進会議」に対して提案する。
該当する愛知目標（複数回答可）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標 1
平成 25 年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東京湾再生官民連携フォーラム設立にあわせ、東京湾の環境への関心を喚起するイベント「東京湾大感謝祭」を開催。 ・ フォーラムの目的を達成するための活動を具体的に実施する5つのPT（プロジェクトチーム）が活動開始。 ・ フォーラムの活動や、フォーラム会員の取組をHP等で発信し、多様な主体へのフォーラムへの参画を呼びかけ。 ・ 平成 26 年 3 月「国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）」が推奨する事業として認定。
平成 26 年度実施内容等（予定）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東京湾再生への多様な意見、PTでの検討内容を取りまとめ、東京湾再生推進会議へ提案する。 ・ 活動をHPで広報するとともに、「第2回東京湾大感謝祭」を開催し、東京湾再生の取り組み多くの人へ周知し、フォーラムへの参画を呼びかけ活動の輪を拡げる。

名称	都市公園等、都市における緑地による生態系ネットワークの形成
概要・目的	水と緑のネットワークの形成を推進するため、都市に残された緑地や都市近郊の比較的大規模な緑地の保全を推進するとともに、多様な主体が参画した緑地の保全等により都市の緑地の一層の保全を推進する。
該当する愛知目標(複数回答可)	・目標1、目標2
平成25年度実施内容等	・平成24年度には、都市公園等整備面積：1,204ha、特別緑地保全地区の指定面積：56ha、市民緑地の指定面積：3haが増加し、拠点となる緑地の保全・創出・再生を進めるとともに、都市における生態系ネットワークの形成を促進した。 (※平成25年度の実施内容については調査中)
平成26年度実施内容等(予定)	・平成23年10月に策定した「緑の基本計画における生物多様性の確保に関する技術的配慮事項」により、地方公共団体が都市における生物多様性の確保の観点から、緑の基本計画の策定又は改定ができるよう、普及啓発を図る。

名称	流域連携の広域化による生態系ネットワーク形成
概要・目的	・円山川におけるコウノトリの再生等、地域の多様な主体(自治体、市民、農業関係等)と連携した生態系ネットワーク形成の取組の先進事例を検証し、そのノウハウを基に、他地域へ展開している。まずは野田市を始めとする関東地域において、国土交通省が中心となってネットワーク形成を推進している。
該当する愛知目標(複数回答可)	・目標1、2
平成25年度実施内容等	・円山川における多様な主体連携によるコウノトリ再生で得られたノウハウを、関東地域における広域的取組へ展開。
平成26年度実施内容等(予定)	・円山川における多様な主体連携によるコウノトリ再生で得られたノウハウを、関東地域をはじめとする各地で広域的取組へ展開。

国連生物多様性の10年日本委員会
関係団体・関係省庁の取り組み

団体名：環境省

名称	生物多様性国家戦略の推進
概要・目的	・生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）において採択された愛知目標の達成に向け、「生物多様性国家戦略2011-2020」（平成24年9月閣議決定）に沿って取組を推進する。
該当する愛知目標（複数回答可）	・全て
平成25年度実施内容等	・「生物多様性国家戦略2011-2020」に沿って取組を引き続き推進 ・「生物多様性国家戦略2011-2020」の実施状況について総合的な点検を実施し、その結果を踏まえ生物多様性条約の履行状況に関する第5回国別報告書を作成・提出
平成26年度実施内容等（予定）	・「生物多様性国家戦略2011-2020」に沿って取組を引き続き推進 ・10月に韓国・ピョンチャンで開催予定のCOP12において行われる愛知目標の中間評価の結果を踏まえ、「生物多様性国家戦略2012-2020」の見直しの可否を検討予定。

名称	名古屋議定書に関する取り組み
概要・目的	・生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）で採択された「遺伝資源へのアクセスと利益配分（ABS）に関する名古屋議定書」について、「可能な限り早期に締結し、遅くとも2015年までに国内措置を実施すること」を目指し、国内措置を検討
該当する愛知目標（複数回答可）	・目標16
平成25年度実施内容等	・関係する産業界や学術分野の有識者等により構成される「名古屋議定書に係る国内措置のあり方検討会」を開催し、我が国にふさわしい国内措置のあり方を検討、平成26年3月に報告書とりまとめ ・地方説明会の開催による名古屋議定書及びABSに関する理解促進、普及啓発 ・諸外国の動向の情報収集及び整理 ・国内企業や研究者へのヒアリングによる情報収集

平成 26 年度 実施内容等 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係省庁連絡会議の下、議定書の早期締結を目指し、日本にふさわしい国内措置の検討を進める ・ 諸外国の動向及び各国国内制度についての情報収集及び整理 ・ 国内企業や研究者へのヒアリングによる情報収集 ・ 関係産業界及び学術研究分野との国内措置案に関する意見交換のための説明会等の開催 ・ 名古屋議定書及び ABS に関する普及啓発
---------------------------	--

名称	生物多様性の地域連携促進
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生物多様性地域連携促進法（平成 23 年 10 月施行）の活用による活動計画の策定、協議会の組織化、支援センターの設置等を促進するため、アドバイザー派遣事業等を実施
該当する 愛知目標（複数回答可）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標 1、目標 17
平成 25 年度 実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・ アドバイザー派遣事業等を実施（全国 5 カ所） ・ HP、パンフレット等広報による情報発信
平成 26 年度 実施内容等 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・ アドバイザー派遣事業等を実施 ・ 各地域の活動に関する情報収集を行い、HP 等で情報発信

名称	地域における生物多様性保全活動支援
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域における生物多様性の保全に資する活動等を支援するため、以下の事業を実施 <ol style="list-style-type: none"> ① 生物多様性保全推進支援事業（平成 20 年度～） 地方公共団体、NPO、地域の活動団体等からなる「地域生物多様性協議会」における先進的・効果的な活動等に対して、必要な経費の一部を交付 ② 地域生物多様性保全活動支援事業（平成 22 年度～） 地域における生物多様性の保全に関する法律に基づく法定計画等の策定および先進的・効果的な実証事業を、委託事業として支援

該当する 愛知目標(複数回答可)	・目標 1、目標 17
平成 25 年度 実施内容等	・①は 23 事業を実施(継続を含む) ・②は 31 事業を実施(同上)
平成 26 年度 実施内容等 (予定)	・①は 27 事業を実施(新規及び継続。平成 26 年 6 月時点) ・②は 11 事業を実施(継続のみ)

名称	生物多様性の経済価値評価
概要・目的	・国内の様々な主体が生物多様性や生態系サービスの重要性を認識し、自らの意思決定や行動に反映していくことを目的に、生物多様性の経済的な価値評価の試行とその普及を推進
該当する 愛知目標(複数回答可)	・目標 1、目標 2、目標 14
平成 25 年度 実施内容等	・湿原・干潟の経済価値評価を実施 ・CVMによる生物多様性の経済価値評価(干潟の再生及びツシマヤマネコ保護増殖事業)を実施 ・生物多様性の経済価値評価に関する各種情報を収集、発信
平成 26 年度 実施内容等 (予定)	・経済価値評価結果の活用方法の検討 ・引き続き、自然保護地域や自然環境保全政策等を対象とした生物多様性の経済価値評価を実施 ・生物多様性の経済価値評価に関する各種情報を収集、発信

名称	経済社会における生物多様性の保全等の促進
概要・目的	・経済社会における生物多様性の保全及び持続可能な利用の推進を図るため、必要な情報収集・発信等を実施
該当する 愛知目標(複数回答可)	・目標 1、目標 4

平成 25 年度 実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業者による取組の評価手法・促進策の検討 ・ 地方公共団体による事業者との連携状況に関する情報の収集 ・ 意見交換会の開催 ・ 国際的な動向の把握 ・ 事業者向けの普及啓発資料の作成 ・ ウェブサイトの更新等を実施
平成 26 年度 実施内容等 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの成果を活用しつつ、事業者団体や事業者における行動指針や取組事例集の作成・公表の促進策の検討など

名称	自然再生事業
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 失われた自然を積極的に再生することにより、政府が取り組むべき重要課題である「自然と共生する社会の実現」を生態系の観点から着実に推進
該当する 愛知目標(複数回答可)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標 1 5
平成 25 年度 実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 湿原の再生やサンゴの再生など行う自然再生事業を、専門家、地域住民、NPO等の多様な主体の参画を得つつ、全国の国立公園内の7地区で実施
平成 26 年度 実施内容等 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 湿原の再生やサンゴの再生など行う自然再生事業を、専門家、地域住民、NPO等の多様な主体の参画を得つつ、全国の国立公園内の7地区で実施

名称	里地里山保全活用行動計画の推進
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 里地里山に関わる様々な主体に対し、里地里山の重要性、里地里山の保全活用の理念、方向性、取組の基本方針及びその進め方を提示するとともに、国が実施する保全活用施策を具体的に示すことにより、里地里山の意義について国民の理解を促進し、多様な主体による保全活用の取組が全国各地で国民的運動として展開されるために、以下の事業を実施 ① 里地里山保全活用行動推進事業 里地里山保全活用を促進するために有効な情報発信・技術支援及び保全活用促進方策について検討

該当する 愛知目標(複 数回答可)	・ 目標 7、目標 18
平成 25 年度 実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特徴的な取組事例及び団体への参加促進情報をホームページで発信 ・ 保全活動を効率的かつ持続可能な取組とするための技術研修会を開催(全国 5ヶ所) ・ 関係主体との有機的な連携による効果的取組の促進 ・ 保全活用を促進するための国の関与のあり方検討(重要地域選定の具体的手法) ・ 草本質系バイオマス利活用技術開発を検討
平成 26 年度 実施内容等 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特徴的な取組事例及び団体への参加促進情報をホームページで発信 ・ 保全活用を促進するための国の関与のあり方検討(重要地域の選定) ・ 草本質系バイオマス利活用技術開発を検討 ・ 木質・草本質系バイオマス利活用の促進(バイオマスボイラー等の設備導入への支援)

名称	世界自然遺産登録への取組及び登録地域の自然環境保全
概要・目的	・ 国内の自然遺産候補地が世界遺産登録されるよう取組を進め、世界的に優れた自然環境の価値を保全
該当する 愛知目標(複 数回答可)	・ 目標 11
平成 25 年度 実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存の世界自然遺産地域(屋久島、白神山地、知床、小笠原)について、適切な保全管理を推進 ・ 国内候補地である奄美・琉球について、専門家による「奄美・琉球世界自然遺産候補地科学委員会」を開催し、推薦候補地域として奄美大島、徳之島、沖縄島北部、西表島の4島を選定 ・ 平成 24 年 1 月に文化庁及び林野庁と共同で推薦書を提出した富士山については、平成 25 年 6 月に開催された第 37 回世界遺産委員会において世界文化遺産として登録が決定。適切な保全管理や適正利用に係る普及啓発を推進

平成 26 年度 実施内容等 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の世界自然遺産地域（屋久島、白神山地、知床、小笠原諸島）について、管理体制と保全施策を充実、適切な保安全管理を推進 ・平成 25 年 6 月に登録された富士山世界文化遺産地域については、引き続き、国立公園として優れた自然の風景地の保護、適正な利用を推進 ・奄美・琉球について、できるだけ早期の世界自然遺産登録を目指して地元の関係者との調整等を推進
---------------------------	--

名称	海洋生物多様性の保全の推進
概要・目的	海洋生物多様性保全戦略（平成 23 年 3 月 環境省）に基づき、海洋生物多様性の効果的な保全を図るために抽出した生物多様性の保全上重要度の高い海域（重要海域）を基礎とした保全策の検討。
該当する 愛知目標（複 数回答可）	・目標 1 1
平成 25 年度 実施内容等	海洋生物多様性保全戦略に基づき、下記について実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・重要海域の抽出を完了した。
平成 26 年度 実施内容等 (予定)	・公表用資料の整備、既存海洋保護区等と照らし合わせたギャップ分析等の実施

名称	サンゴ礁生態系の保全の推進
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・サンゴ礁生態系保全行動計画（平成 22 年 4 月 環境省）に基づき、サンゴ礁生態系の保全及び持続可能な利用を促進し、地域社会の持続的な発展を図ることを目的に、各種取組を行う。 ・国際サンゴ礁イニシアティブ（ICRI）東アジア地域サンゴ礁保護区ネットワーク戦略 2010 の取組を進める。
該当する 愛知目標（複 数回答可）	・目標 1 0
平成 25 年度 実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・サンゴ礁生態系保全行動計画に基づき、下記について実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・普及啓発 ・各種調査 ・海域における国立公園の指定・拡張や適切な管理の推進

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国立公園内における自然再生事業 ・ サンゴ礁生態系保全行動計画の実施状況点検 等 ・ 鹿児島県におけるサンゴ礁生態系の保全に関する情報収集 ・ ICRI 東アジア地域サンゴ礁保護区ネットワーク戦略 2010 の取組推進のため、シンガポールにおいて東アジア地域の各国フォーカルポイントやサンゴ礁研究者とワークショップを開催。
平成 26 年度 実施内容等 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き、サンゴ礁生態系保全行動計画に基づく取組を推進。 ・ 那覇市(沖縄県)において ICRI 総会及び東アジア地域ワークショップを開催。

名称	国立公園等シカ管理対策事業
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国立公園や国指定鳥獣保護区のうちシカによる自然植生の食害が著しく高山植物群落の消失や自然林への悪影響が生じている箇所において、シカの生態調査、捕獲手法の検討等を実施し、生態系維持回復事業計画の策定と当該計画に基づく予防的・順応的な対策等に基づきシカによる生態系への被害を軽減
該当する 愛知目標(複 数回答可)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標 5、目標 7、目標 1 2
平成 25 年度 実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・ シカによる被害状況が著しい国立公園及び国指定鳥獣保護区において、被害状況の段階に即して以下の事業を実施。事業実施箇所は 15 地域 ○シカの移動経路や越冬地の把握、生息密度指標の把握に資する生息状況調査等の実施 ○保護管理に向けた合意形成の枠組み構築を目的とした地域協議会の運営 ○生態系維持回復事業計画の策定 ○植生被害状況及びシカ生息密度・移動経路の分析による地形・実施体制に即した効果的な捕獲手法の検討 ○シカの試験捕獲実施
平成 26 年度 実施内容等 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・ シカによる被害状況が著しい国立公園及び国指定鳥獣保護区において、被害状況の段階に即して事業を実施。事業内容は平成 25 年度と同様。事業実施箇所は 20 地域

名称	第1回アジア国立公園会議の開催
概要・目的	・平成25年11月に、アジア地域として国立公園等の保護地域関係者が集まる初めての会議である「アジア国立公園会議」を開催し、愛知目標達成、生物多様性条約保護地域作業計画の実施に向けて、アジア各国が協力して取り組むためのパートナーシップの構築に向けた検討等を進める
該当する愛知目標(複数回答可)	・目標11
平成25年度実施内容等	・「第1回アジア国立公園会議」を環境省と国際自然保護連合(IUCN)の共催により平成25年11月に仙台市で開催し、アジアを中心に40の国及び地域から約800名の参加を得た。会議では、アジアにおける保護地域の理念を定めた「アジア保護地域憲章」等を策定
平成26年度実施内容等(予定)	・第1回アジア国立公園会議で得られた成果を踏まえ、平成26年11月に豪州・シドニーで開催される「第6回世界国立公園会議」などの場で情報発信するとともに、アジアにおける保護地域の連携のための枠組みの構築を進める

名称	国立・国定公園総点検事業
概要・目的	・国立・国定公園を取り巻く自然環境や社会環境、風景評価の多様化等の変化を踏まえ、生態系及び地形地質の観点から重要地域を選定し、国立・国定公園の新規指定又は大規模拡張に向けた取組を推進
該当する愛知目標(複数回答可)	・目標11
平成25年度実施内容等	・平成22年度に新規指定又は大規模拡張の対象となりうる候補地18箇所を選定したことを踏まえ、陸中海岸国立公園の区域を拡張して三陸復興国立公園として指定、また慶良間諸島国立公園の新規指定を実施。
平成26年度実施内容等(予定)	・奄美群島の国立公園の新規指定、吉野熊野国立公園の和歌山県沿岸海域の拡張や三陸復興国立公園の南三陸地域の拡張等、国立・国定公園の新規指定又は大規模拡張に向けた取組を推進

名称	海域の国立・国定公園適正管理強化事業
概要・目的	・ 国立・国定公園の海域で、干潟、藻場、サンゴ礁等優れた海中・海上景観を有する海域を海域公園地区に指定するとともに、オニヒトデ等の食害生物の駆除や利用ルールの策定等保全管理を強化
該当する愛知目標(複数回答可)	・ 目標 1 1
平成 25 年度実施内容等	・ 海域を有する各国立公園において、海域公園地区指定に向けた海域資源や生物の調査を実施するとともに、オニヒトデの駆除、海岸漂着ゴミの清掃、サンゴやウミガメ等の保全対象の調査モニタリング、利用者間のあつれき解消に向けた調査を実施
平成 26 年度実施内容等(予定)	・ 平成 25 年度実施内容を継続

名称	絶滅のおそれのある野生生物種の保全
概要・目的	・ 我が国に生息・生育する絶滅危惧種を保全するため、レッドリスト・レッドデータブックを作成するとともに、国内希少野生動植物種の新規指定や保護増殖事業等を推進
該当する愛知目標(複数回答可)	・ 目標 1 2
平成 25 年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 罰則の強化を含む種の保存法改正法が成立 ・ 第 4 次環境省レッドリストに基づくレッドデータブックの作成作業を推進 ・ 絶滅危惧種の保全を全国的に推進することを目的とし、そのための基本的な考え方と早急に取り組むべき施策の展開を示した「絶滅のおそれのある野生生物種の保全戦略」を検討
平成 26 年度実施内容等(予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 野生生物課に新たに「希少種保全推進室」を設置し、体制を強化 ・ 「絶滅のおそれのある野生生物種の保全戦略」を策定(4月) ・ 日本動物園水族館協会と「生物多様性保全の推進に関する基本協定書」を締結(5月) ・ 第 4 次環境省レッドリストに基づくレッドデータブックを出版 ・ 2020 年までに 300 種を国内希少野生動植物種に追加指定することを目指し、そのための作業に着手

名称	ツシマヤマネコ保護増殖事業
概要・目的	・ ツシマヤマネコの絶滅を回避するため、生息環境の維持改善や飼育下繁殖の取組、飼育下繁殖個体の野生復帰の技術確立などの保護増殖事業を実施するもの
該当する愛知目標(複数回答可)	・ 目標 1 2
平成 25 年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種モニタリング調査、域内での生息環境改善や地域づくりに関連する取組を継続的に実施 ・ ツシマヤマネコ生息状況調査(第四次調査、2010年代の生息状況)の公表 ・ 生息域外保全(飼育下繁殖)について(公社)日本動物園水族館協会及び飼育協力動物園(合計9園)とともに、繁殖技術の共有・改良のための取組を実施 ・ ツシマヤマネコ野生順化ステーションについて、25.4月に巖原事務室を開所し、保護官1名を新規配置。引き続き順化訓練6ケージの整備に着手
平成 26 年度実施内容等(予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種モニタリング調査、域内での生息環境改善や地域づくりに関連する取組を継続的に実施 ・ 日動水との連携を強化し、引き続き飼育下繁殖技術を検討 ・ ツシマヤマネコ野生順化ステーションについて、引き続き順化訓練ケージを整備中(26年度中に完成) ・ 下島での野生復帰の技術確立に向けた実施計画を検討 ・ 対馬島内外でのツシマヤマネコ保護増殖事業に関する普及啓発を強化

名称	トキ保護増殖事業
概要・目的	・ 野生絶滅したトキの回復を図るため、遺伝的多様性の確保に配慮しつつ飼育個体群の充実を図るとともに、佐渡島において生息環境を整備のうえ再導入を行い野生個体群の回復を図るもの。
該当する愛知目標(複数回答可)	・ 目標 1 2

平成 25 年度 実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 佐渡トキ保護センターを中心に飼育下個体群の増殖を行った。 ・ 野生復帰のため佐渡において放鳥を 2 回行い、放鳥トキのモニタリングを行った。 ・ 生息環境整備に関する普及啓発を行った。 ・ 平成 24 年度に策定した「トキ野生復帰ロードマップ」の指標値について年度達成状況を評価した。
平成 26 年度 実施内容等 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 佐渡トキ保護センターを中心に飼育下個体群の増殖を行う。 ・ 野生復帰のため佐渡において 6 月、9 月（予定）に放鳥を行い、放鳥トキのモニタリングを行う。 ・ 生息環境整備に関する普及啓発を行う。 ・ 「トキ野生復帰ロードマップ」指標値について年度達成状況の評価を行うとともに、次期ロードマップの検討に着手する予定。

名称	鳥獣保護管理強化事業
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鳥獣の食害による生態系被害や農林水産業被害等が深刻な問題となっていることから、生態系等への鳥獣被害対策に係る担い手の確保、地域ぐるみでの捕獲の取組、新たな捕獲手法や体制の整備、鳥獣保護法の施行状況の点検に係る調査検討等、総合的な鳥獣保護管理を抜本的に強化
該当する 愛知目標(複 数回答可)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標 5、目標 7、目標 1 2
平成 25 年度 実施内容等	<p>鳥獣保護法の施行状況の見直しを行い、平成 26 年 1 月に得られた中央環境審議会答申「鳥獣の保護及び狩猟の適正化につき講ずべき措置について」を踏まえ、同年 3 月に、鳥獣保護法の一部改正法案を第 186 回国会に提出した（本改正法案は同年 5 月に可決・成立及び公布済み）。</p> <p>また、以下のような事業を継続的に実施し、鳥獣の保護管理の充実・強化を図った</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 狩猟免許の取得へ向けたセミナーの開催（全国 9 箇所） ・ 地域ぐるみでの捕獲促進を目的としたモデル事業（全国 13 箇所） ・ 鳥獣保護管理に係る専門的知見・技術を有する人材の登録事業 ・ 行政担当職員・狩猟者等を対象とした鳥獣被害対策及び捕獲技術等に係る研修会（計 10 回開催） ・ 都道府県における特定鳥獣保護管理計画の作成や保護管理のより効果的な実施のため、イノシシ、シカ等の特定鳥獣 5 種について設置した保護管理検討会において検討を実施 等

平成 26 年度 実施内容等 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> 改正鳥獣法の施行（公布日（平成 26 年 5 月 30 日）から 1 年以内）へ向けて、基本指針及び政省令の改正作業等を実施。 鳥獣保護管理の充実・強化のため、平成 25 年度の事業を引き続き実施
---------------------------	---

名称	沖縄県北部地域におけるマングース防除事業
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 世界自然遺産への登録を目指しており、希少な野生生物の生息地である沖縄県北部地域（やんばる）において、ヤンバルクイナ等の希少な動物を捕食しているマングースの平成 34 年度までの根絶に向け、平成 13 年度より環境省と沖縄県が事業区域を分担し、連携して、マングースの防除を実施（沖縄県は平成 12 年度より開始）。事業の目的は深刻な影響を受けた貴重な在来生態系の回復
該当する 愛知目標（複 数回答可）	<ul style="list-style-type: none"> 目標 9
平成 25 年度 実施内容等	<p>○環境省は希少種生息核心地域（やんばる北部地域）において、沖縄県は比較的マングースが高密度に生息するやんばる南部地域において、以下の事業を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> マングース等の捕獲 効果的な捕獲方法の検討 希少種の回復状況の把握 現在のマングース北上防止柵（SF ライン）の南に第二の北上防止柵を整備（沖縄県実施（平成 23, 24 年度）） 
平成 26 年度 実施内容等 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、環境省と沖縄県で連携協力して事業を実施 地域的な根絶を評価するためのモニタリングを実施

	平成25年度		平成26年度(予定)		備考(今後の取り組み等)
	4月～9月	10月～3月	4月～9月	10月～3月	
委員会の主な取り組み					
委員会の運営	・委員会(5/23) ・幹事会(8月)	・幹事会(2月)	・委員会(7/10)	・幹事会(2月)	
セミナー等の開催	・国際生物多様性の日シンポジウム(5/22) ・地域セミナー(7/15熊本、8/10富山)	・全国ミーティング(11/10豊岡) ・地域セミナー(2月愛媛)	・国際生物多様性の日シンポジウム(5/22) ・地域セミナー(9月大分)	・全国ミーティング(10/24豊橋) ・地域セミナー(11月北海道、12月宮城)	
その他広報等	・生物多様性主流化推進団(仮称)旗揚げ ・連携事業の認定(9月)	・連携事業の認定(3月)	・連携事業の認定(9月)	・推薦ツール(映像・音楽等)の選定(3月) ・連携事業の認定(3月)	
関係団体の主な取り組み					
一般社団法人 日本経済団体連合会	・生物多様性保全シンポジウム(5/22) ・生物多様性事業者アンケート(8月)	・グローバルB&B(11月)、パートナーシップ第3回会合(12月) ・自然資本セミナー(2/17)、環境活動評価セミナー(3/12)	・東北復興支援シンポジウム(5/22) ・企業・NGO交流会(5/22)	・グローバルB&B第4回会合(10月韓国) ・生物多様性民間参画パートナーシップ第4回委員会合	・東北復興支援 ・ESD
公益社団法人 経済同友会	-	-	-	-	-
日本商工会議所	・環境専門委員会(6/5) ・容器包装リサイクル業務研修会(9月3回実施)	環境専門委員会(3/27)	・容器包装リサイクル業務研修会(9月、10月)	環境専門委員会(開催時期未定)	-
公益社団法人 日本青年会議所	-	-	-	-	-
一般社団法人 大日本水産会	MEL普及推進(銀座三越高知フェア(4/24～30)、日本橋三越高知フェア(5/29～6/2)、第15回シーフードショー-8/21～23)	持続的漁業認証(長崎)、MEL普及推進(北海道ラズ7月末)、国際展示会(大阪、千葉)等での普及PR	持続的漁業(生産段階認証)、MEL制度・普及説明の実施、国際展示会、機関誌、Facebook等による普及PR	消費者等への普及啓蒙活動、国際展示会、機関誌、Facebook等での活動普及PR等	-
全国漁業協同組合連合会	漁業者による自主的な資源管理・漁場保全(通年)	地域セミナーinえひめ参加(1/25愛媛県松山市)	アサヒビール環境文化講座に講師として参加(5/14墨田区)	漁業者による自主的な資源管理・漁場保全(通年)	-
一般社団法人 日本林業協会	・里山林再生の調査研究会第7回	・里山林再生の調査研究会第8回、第9回 ・公開講座「生物多様性と森林の保全」(10/22)	・里山林再生の調査研究報告書取りまとめ	-	-
全国森林組合連合会	森林組合トップセミナー(8/1-2東京、ホテル日航東京) 認定森林施業プランナー公開セミナー(9/24東京、木材会館)		森林組合トップセミナー(7/31-8/1東京、ホテル日航東京) 認定森林施業プランナー対象ワークショップ	認定森林施業プランナー対象ワークショップ	-
全国農業協同組合中央会(JA全中)	-	・環境保全型農業推進コンクール	-	-	-
全国農業協同組合連合会(JA全農)	-	-	-	-	-
日本旅行業組合	-	-	-	-	-
国際自然保護連合日本委員会(IUCN-J)	・丸の内さえずり館にて、愛知ターゲットの展示(5-6月) ・愛知ターゲットガイドの制作(9月)	・エコプロダクツ2013での協働展示(12月) ・にじゅうまるCOP1(2/15-2/16)開催	・COP12準備会合(SBSTTA)参加報告会 ・生物多様性アクションガイドの制作(9月)	・COP12等国際会議参加 展示・イベントの実施 ・COP12報告会・セミナー等の実施	-
公益社団法人 日本植物園協会	・植物多様性保全拠点ネットワーク事業(通年)	・津波被災地における絶滅危惧植物の保全を考える会(2/22仙台)	・植物多様性保全拠点ネットワーク事業(通年) ・公開シンポジウム(6/14富山)	-	2015年に、当協会の植物多様性保全2020年目標の中間報告を行う。
公益社団法人 日本動物園水族館協会	・第3回JAZAシンポジウム(9/1京都) いのちの博物館の実現に向けて	・第4回JAZAシンポジウム(11/2広島) いのちの博物館の実現に向けて	・第5回JAZAシンポジウム(7/6富山) いのちの博物館の実現に向けて	・第6回JAZAシンポジウム(2/7仙台) いのちの博物館の実現に向けて	-
公益財団法人 日本博物館協会	-	-	-	-	-
国連生物多様性の10年市民ネットワーク	世界農業遺産会議参加(5月)、総会開催し新体制に移行(6月)、IPSY-4参加(9月)、日韓NGOミーティング第一回(9月)、	日韓NGOミーティング第二回(10月)、日韓NGOミーティング第三回(2月)、SBSTTA17参加(10月)、SBSTTA17報告会(10月)、8JWGに参加(10月)、魚津セミナー-生物多様性地域戦略の意義と有効活用開催(11月)、世界農業遺産シンポジウムin阿蘇参加(11月)、機関誌準備号発行(2月)、にじゅうまるCOP1第八分科会(愛知目標1)担当(2月)、いきもの調査調べ2014(2月)、市民ネットパンフレット作成(3月)	第一回在来種祭@ソウル参加(4月)、Towards cop12イベント東京と大阪で開催(5月)、院内集会「日本の生物多様性チェック」開催(5月)、SBSTTA18参加(6月)、SBSTTA18報告会(7月)、	COP12参加者事前学習会(9月)、COP12参加(10月)、ホットスポットミーティング開催(1月)、ホットスポット日本地図作成(3月)、世界防災会議(3月)、Web調査いきもの意識調べ2015(未定)、機関誌1号発行(未定)	生物多様性保全のモデルづくり、プラットフォーム団体としての機能推進、グリーンオリビックの提案、ポスト2015開発目標(MGDs)
一般社団法人 CEPAジャパン	・MY行動宣言 5つのアクション(通年) ・生物多様性アクション大賞募集開始(8/)	・生物多様性アクション大賞表彰式(11/3) ・エコプロ展「生物多様性ナレッジスクエア」展示(12/)	・MY行動宣言 5つのアクション(通年) ・生物多様性アクション大賞募集開始(5/22)	・生物多様性アクション大賞表彰式(11/26) ・エコプロ展「生物多様性ナレッジスクエア」(12/11-)	-
生物多様性わかものネットワーク	・生物多様性わかもの会議(9/28.29)	・SBSTTA17派遣(10月カナダ) ・第一回アジア国立公園会議派遣(11月仙台)	・ごととプロジェクト(5～9月) ・生物多様性わかもの会議(9月)	・生物多様性条約COP12への若者派遣(10月韓国) ・生物多様性わかもの活動概況発表	-
一般財団法人 自然公園財団	・自然ふれあい行事(通年)	・野生動物写真コンテスト	・自然ふれあい行事(通年)	・野生動物写真コンテスト	-
SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワーク	設立総会(9/13福井)	会員セミナー(2/26東京)	総会、シンポジウム(8月)	会員セミナー(2月)	-
公益財団法人 日本自然保護協会(NACS-J)	自然観察指導員講習会(全国14カ所71人養成)、自然しらべ「カメさがし!」3512名参加。	各地の開発案件等への保護問題対応、NACS-J市民カレッジ、生物多様性地域戦略策定支援。	自然観察指導員講習会(全国15回)、自然しらべ「赤とんぼ」、東北沿岸調査、森の恵みプロジェクト。	NACS-J市民カレッジ、自然保護大賞、地域戦略策定・エコパーク登録支援、保護問題対応。	親子「生きもの写真コンテスト」、自然の回復力評価調査研究。
地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)	・生物多様性の日シンポジウム(5/22国連大学) ・「未来へつなぐ、里山・里海」展(5/15～6/29)	・UNDB-J地域セミナー各EPOへの協力依頼 ・通年:子供向け推薦図書の展示・紹介(GEOC)	・生物多様性の日シンポジウム(5/22国連大学) ・通年:子供向け推薦図書の展示・紹介(GEOC)	・UNDB-J地域セミナー各EPOへの協力依頼 ・通年:子供向け推薦図書の展示・紹介(GEOC)	-
公益社団法人 国土緑化推進機構	・みどりの感謝祭「みどりとふれあうフェスティバル」(5月) ・野鳥による生物多様性に富んだ森づくり事業(通年)	・エコプロダクツ2013「森林からはじまるエコライフ展」(12月) ・「グリーンウェイブ2014」キックオフ・フォーラム(2月)	・普及啓発教材「森の恵み」「1本の木の物語」制作・配布 ・東北復興・海岸林再生記念植樹祭2014(5月)	・各種会合等での発信等(COP12[10月]・生物多様性全国ミーティング[10月]・ESDに関する世界会議(11月))	グリーンウェイブの推進体制の拡充
山階鳥類研究所	-	-	-	-	-
生物多様性自治体ネットワーク	-	・総会(11月) ・生物多様性ミニフォーラム(11月)	・「国際生物多様性の日」広報(5/15～5/22) ・幹事会(7月) ・ポスターセッション(7月)	・総会(10月) ・生物多様性ミニフォーラム(10月)	-
関係省庁の主な取り組み					
外務省	・生物多様性関連会合等(国内、海外)(通年)	・生物多様性関連会合等(国内、海外)(通年)・アジア国立公園会議(11/14～17仙台)	・生物多様性関連会合等(国内、海外)(通年)	・生物多様性条約COP12(10/6～10/17韓国・平壤) ・ESD(11月愛知・岡山)	-
文部科学省	・エコスクールパイロット・モデル事業の認定(4月、5月) ・公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム(通年)	・エコスクールパイロット・モデル事業の認定(2月)	・エコスクールパイロット・モデル事業の認定(4月) ・公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム(通年)	-	-
農林水産省	・生物多様性を重視した農林水産施策の実施(通年) ・世界農業遺産国際会議(石川県:5/29～31)	・アジア国立公園会議(11/14～17仙台) ・農林水産分野の生物多様性保全に関するセミナー(3/10)	・生物多様性を重視した農林水産施策の実施(通年) ・2014里山国際会議(5/1～2)	・生物多様性条約COP12(10/6～10/17韓国・平壤) ・ESD(11月愛知・岡山)	-
経済産業省	微生物遺伝資源の提供(通年) 遺伝資源に円滑にアクセスできる環境整備事業	-	微生物遺伝資源の提供(通年) 遺伝資源に円滑にアクセスできる環境整備事業	-	-
国土交通省	・都市の生物多様性指標(素案)の策定(5月)	・関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会開催(2月) ・環境行動計画の改定(3月)	-	-	-
(東京湾再生官民連携フォーラム)	-	・設立総会・東京湾大感謝祭開催(11月23日) ・「国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)」推奨の事業として認定。(3月18日)	-	・第2回総会・東京湾大感謝祭開催(10月頃予定)	-
環境省	・地域生物多様性保全活動支援事業(通年)	・アジア国立公園会議(11/14～17仙台)	・地域生物多様性保全活動支援事業(通年)	・生物多様性条約COP12(10/6～10/17韓国・平壤) ・ESD(11月愛知・岡山)	-

国連生物多様性の 10 年日本委員会 (UNDB-J)

今後の委員会の進め方について (案)

1. 中間評価の実施

- ・ 国連生物多様性の 10 年の折り返し地点である平成 27 年 (2015 年) に、UNDB-J の活動の中間評価を実施し、2020 年に向けたロードマップを作成
- ・ このため、平成 26 年度中に以下を実施
 - ✓ 各セクターの取組の整理、先進事例の収集を行うとともに、セクター間の連携の促進を目指し、UNDB-J 構成団体と事務局の間で意見交換を実施
 - ✓ 各地域における連携の促進、取組の底上げ、生物多様性地域戦略の策定の促進を目指し、地域の先進事例の共有や意見交換を実施
 - ✓ 中間評価やロードマップの方向性についてアドバイスを頂くために、運営部会に外部の方を加えた懇談会を開催

2. 事業の見直し

- ・ 上記の中間評価をもとに、平成 27 年度から事業を見直し
- ・ このため、平成 26 年度中に以下を実施
 - ✓ 企業等を訪問してヒアリングを行い、企業等にとって魅力的な事業を検討
 - ✓ Iki・Tomo 推進事業^{*}を拡大

※ UNDB-J 推進事業 (愛称: Iki・Tomo 推進事業)

- ・ UNDB-J 活動を拡大するため、UNDB-J 構成団体による事業との連携が効果的な事業や、UNDB-J 構成団体からの提案事業等については、環境省 (UNDB-J 全体の事務局) と調整のうえ、UNDB-J 推進事業 (愛称: Iki・Tomo 推進事業) に位置づけ、当該団体内に事務局 (愛称: Iki・Tomo 推進事務局) を設置
- ・ 事業の実施にあたっては、UNDB-J 全体の事務局である環境省と連携しつつ実施

国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J) 中間評価に向けたスケジュール(案)

	主要行事	これまでのUNDB-J事業の 評価、今後の事業の見直し	各セクターの取組・成果・課 題の整理、先進事例の共有	各セクターの目指す姿・ビ ジョンの検討
H26.5				
H26.6	6/26運営部会	事務局から構成団体にアンケートを実施 ※各団体の取組の把握と同時に実施		
		アンケート結果等について事務局から構成団体に		
		運営部会で中間評価の進め方や論点について議論		
H26.7	7/10委員会	委員会で中間評価の方針を確認 ・アンケート結果報告、先進事例紹介		
		懇談会で中間評価の構成や論点についてアドバイスを頂く		
H26.8		個別企業に取組 やニーズをヒアリ ング		
H26.9	運営部会+懇談会	運営部会で中間評価の骨子について議論		
H26.10	COP12(10/6~17) 全国ミーティング (10/24)	COP12で中間評価の骨子や先進事例を紹介		
		全国ミーティングで愛知県の取組を事例とした パネルディスカッション等を実施		
H26.11				セクターごとの意見 交換会を実施
H26.12	フォーラム	2010年の目指す姿を議論		
H27.1		平成27年度以降 の事業の見直し		
H27.2	運営部会 幹事会	運営部会、幹事会で中間評価の最終案及び 平成27年度事業実施計画について議論		
H27.3	懇談会	懇談会で中間評価の最終案及び 平成27年度事業実施計画についてアドバイスを頂く		
H27.4				
H27.5	運営部会 委員会	委員会で中間評価及び平成27年度事業実施計画を決定・公表		

UNDB-Jの取組の中間評価に向けたアンケート 集計概略

回答：25 団体

1. UNDB-Jの事業について

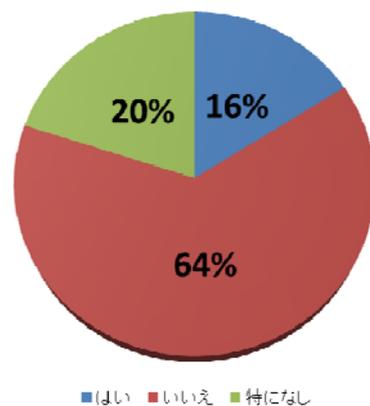
1) UNDB-Jのこれまでの取組で、貴団体が参加又は活用された事例があれば御教示ください。

→ 生物多様性全国ミーティングへの参加との回答が最も多く、次いで、生物多様性地域セミナーへの参加、MY行動宣言の活用と続いているものの、全体的に十分活用されているとは言えない状況である。

2) 貴団体において、今後参加や活用を予定されている取組があれば御教示ください。また、今後参加したあるいは活用したい取組があれば御教示ください

→ 生物多様性全国ミーティングへの参加のほか、生物多様性アクション大賞、認定事業（後援含む）、海外が関わる活動との回答があったものの、全体的には活用予定・活用希望の取組が少ない状況である。

3) 生物多様性の普及啓発を目的に、講師を派遣する座学タイプの出前講座を開催しています。今年度出前講座を希望されますか（講座は無料、旅費は別途必要）。



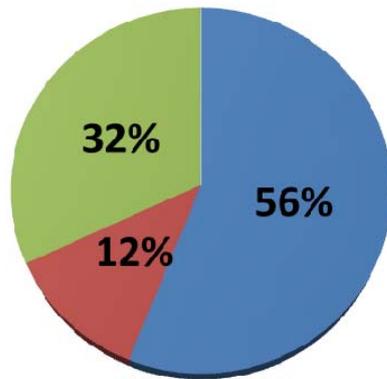
→ 「はい」… 4 「いいえ」… 1 6 「特になし」… 5

現時点での要望は少ない。

今後は、講座の具体的な内容を開示して継続募集するとともに、希望団体にはどのような講座を望んでいるかをヒアリング等により把握して実施予定。

2. 傘下の団体等の取組について

1) 傘下の団体等が行っている生物多様性に関する普及啓発や保全の取組を把握されていますか。



■ はい ■ いいえ ■ 傘下団体なし・回答なし

→ 「はい」… 14 「いいえ」… 3 「傘下団体なし・回答なし」… 8

傘下団体を持つ団体においては、「はい」と答える団体が8割以上となっている。

2) 広く紹介すべき良い事例がありましたら御教示ください。

→各委員、民間企業、NPO、大学等多様な主体による好事例の報告が下記のとおりあった。

- ・民間参画パートナーシップアンケート（経団連自然保護協議会）
- ・ガイドブック「事業活動と生物多様性～関連の把握と取組の考え方～（愛知目標と名古屋議定書の採択を受けて）」（2012年。名古屋商工会議所）
- ・e c o検定（2006年～。東京商工会議所）
- ・それぞれの認証漁業（20漁業）で海洋生態系の保全に配慮した操業を実施。認証漁業関係者、自治体、消費者団体等で普及イベント開催・参加により海洋生態系の保全に配慮した漁業をPR。（大日本水産会）
- ・全国810のグループが取り組む、水産庁「水産多面的機能発揮対策」支援を活用した、藻場、干潟、サンゴ礁、ヨシ帯等の保全活動。（2013年。全国漁業協同組合連合会）
- ・「緑の募金」による森づくり活動への支援・助成（国土緑化推進機構）
- ・多様な樹種の森づくり活動、緑の環境講座（ニッセイ緑の財団）
- ・環境保全型コンクール（全国環境保全型農業推進会議）
- ・にじゅうまるプロジェクトを通じ、優良事例を、認定連携事業候補として提案（IUCN-J）

- ・各動物園、水族館における希少野生動物の種保存事業
- ・滋賀県琵琶湖の取組（須原魚のゆりかご水田協議会）
- ・いきものカフェ（月一回オーガニックカフェで開催する生物多様性茶話会）
- ・ラムサール・ネットワーク日本の取組み
- ・高尾山 ツリーハウスプロジェクト
- ・狩猟サークル「狩り部」（東京農工大学）
- ・里山保全サークル「Forest Nova」（麻布大学）
- ・環境ロドリゲス（早稲田大学）
- ・「トリプルS」に基づく伊藤園の体系的なCSR活動（㈱伊藤園）
- ・一般廃棄物最終処分場整備等事業におけるビオトープ整備計画（大成建設㈱）
- ・希望の森づくり（静岡県掛川市）
- ・EPO(北海道、四国)
- ・大崎のビル街の緑地での生物多様性保全活動（SONY、明電舎）
- ・NPO 法人水辺に遊ぶ会
- ・千葉県自然観察指導員協議会小学校自然観察支援ネットワーク
- ・環境を考慮した学校施設（エコスクール）の整備推進や、環境教育の実践普及などに取り組んでいる。（文部科学省）
- ・多様な主体の連携・協働による東京湾再生の推進（東京湾再生官民連携フォーラム）
など

3) 取組みが行われていない団体等で、取組が難しい理由を把握されていれば御教示ください。

→ 高齢化、人材不足、資金不足という意見が多く、基盤の弱い組織では組織レベルでのつながりの維持が困難である、といった意見もあった。

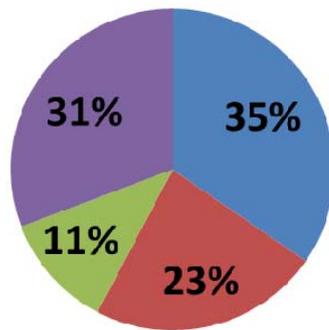
4) 傘下の団体等に対し、生物多様性について勉強会やセミナーを開催されたことがありますか。あれば、その内容を記述ください。

→シンポジウム、セミナー等行政、NPO、経済界の別を問わず開催している。

- ・生物多様性、自然資本、環境活動評価、東北復興支援セミナー（経団連自然保護協議会）
- ・生物多様性に配慮したエコラベル商品普及促進検討会(愛知県環境部)にて、マリン・エコラベルの制度説明と普及について検討した。（大日本水産会）

- ・東海コープ「学び語り合う会」にて、マリン・エコラベル・ジャパンの制度説明を行った。(大日本水産会)
- ・下関県立大学「ふぐ資料室フグシンポジウム」にて、マリン・エコラベル・ジャパンの制度説明を行った。(大日本水産会)
- ・公開講座「生物多様性と森林の保全」(日本林業協会)
- ・いきものカフェ(国連生物多様性の10年市民ネットワーク)
- ・韓国 NGO ゲストを呼び COP12 に向けたイベントで生物多様性と生物多様性条約についてレクチャー(国連生物多様性の10年市民ネットワーク)
- ・各大学の環境サークルなどを訪れての講演会(生物多様性わかものネットワーク)
- ・「グリーンウェイブ」キックオフ・フォーラム(国土緑化推進機構)
- ・「森づくりコミッション」全国研修(国土緑化推進機構)
- ・世界湿地の日シンポジウム「湿地と農業」(農林水産省)
- ・農林水産分野の生物多様性保全に関するセミナー「生物多様性の経済的価値の活用可能性について」(農林水産省)

5) 傘下の団体等に対し、UNDB-J の取組や資料を御紹介頂いたことはありますか。また、「認定連携事業」「生物多様性アクション大賞」への御応募を呼びかけて頂いたことはありますか。あれば、その方法を記述ください。



■メール紹介 ■資料配付 ■メール・資料 両方 ■何もしていない

→ 「メール紹介」… 9 「資料配付」… 6 「メール・資料 両方」… 3
「何もしていない」… 8

機関誌、業界紙、総会、会員用ウェブサイト、メールマガジン、Facebook 等を利用した呼びかけ、資料送付等様々な媒体・活動を通じて呼びかけている。

3. 団体間の連携について

1) UNDB-J の参加する団体同士で連携して行われた取組があれば御教示ください。

→

- ・ 経団連自然保護協議会・国土緑化推進機構による、フォーレストサポーターズとの共催セミナー
- ・ 経団連、日本商工会議所、経済同友会による、「生物多様性民間参画イニシアティブ」の設立
- ・ CEPA ジャパン・国土緑化推進機構による、「生物多様性と子どもの森」キャンペーン
- ・ 地球環境パートナーシッププラザ・国土緑化推進機構による、「地球環境パートナーシッププラザ」でのセミナー等

2) 今後、連携して取組を進めたい団体があれば、その内容とあわせて御教示ください。

→ アンケート、セミナー、展示、普及啓発等の活動での連携を希望する団体が見受けられた。

4. 目標年（2020年）に向けて

愛知目標の目標年である2020年に向けた貴団体の目標や取組方針を御教示ください。

→ 計画に基づく活動の展開を予定する団体、関連する愛知目標の達成に向けた取組を推進する団体がある一方、これまでのどおりの活動を継続する団体もみられた。

5. UNDB-J に対する御意見・御要望をご自由に御記述ください。

・ UNDB-J の運営のための予算を考慮しても、生物多様性の主流化については、活動の選択と集中および、人が参加したくなる仕掛け・生物多様性に注目する仕掛けを戦略的に作っていく必要がある。

・ 生物多様性の普及啓発については、手間をかけずにできること（たとえば資料の配置、広報物の配布等）であれば簡単に協力できそうな反面、会員の設置目的や生物多様性に対する意識に非常に差があり、参加希望をとる形ではなかなか効果的な普及活動は

難しい。

- ・手軽に取り組み可能な具体的な活動案を UNDB-J 委員会よりいただいて、実施を促すと UNDB-J の活動協力が増えると思われる。
- ・企業及びメディアの巻き込みを図っていただきたい。
- ・多数の参加者が見込まれるイベントなどへ、主催者としての出展をお願いしたい。
さらに、関係団体とともに、生物多様性の主流化へ向けて、地球規模の課題であり、国家として取り組んでいる姿勢を強くアピールしていただきたい。求心力、訴求力が違うと思われます。予算の裏付けをお願いしたい。
- ・2020 年に各セクターがこれまでの活動を大々的に発表する、大型の UNDB-J 主催イベントをセットし、そこへ向かって取り組みを加速する、情報を集約していく、などのドライブをかけるしくみをそろそろ仕込んだほうがよいと思われます。
- ・委員会団体が率直な意見交換・懇談できる場を業界別、テーマ別で実施する等、交流促進と取組みの推進が必要だと思います。2020 年からのバックキャストで、最終年に UNDB-J の成果として何を残すか具体的に検討して事業を企画推進する必要があると思います。
- ・トップが出席する構成団体と大臣・委員長との座談会等を連続して開催して、内容を WEB や広報誌で紹介するなどしつつ、関係団体が主体的にトップセールスをしようとするきっかけになるような仕掛けがあると良い。
- ・中心的な行事と想定される「全国ミーティング」が、「自治体ネットワーク」総会と合わさることで自治体関係者は来ているようだが、UNDB-J 関係者が集うプログラムになっていない印象。
- ・UNDB に関する世界各国の活動の事例の一つとして、日本が海外諸国に報告できるものとして活動に賛同し、可能な場面で支援する。

など

第4回 国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)
委員配布資料

〈学識経験者・有識者・文化人〉

- ・イルカ委員

〈保全・普及啓発団体〉

- ・国際自然保護連合日本委員会 (IUCN-J)
- ・国連生物多様性の10年市民ネットワーク
- ・一般社団法人 CEPA ジャパン
- ・公益財団法人 日本自然保護協会 (NACS-J)
- ・公益社団法人 国土緑化推進機構

〈関係省庁〉

- ・農林水産省
- ・環境省